

平成26年度  
第5回市政モニターアンケート

暴力団排除について

北九州市市民文化スポーツ局広聴課

## 目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
(1) 「福岡県暴力団排除条例」の認知度	2
(2) 「福岡県暴力団排除条例」の内容の認知度	3
(3) 「北九州市暴力団排除条例」の認知度	4
(4) 「北九州市暴力団排除条例」の内容の認知度	5
(5) 暴力団排除条例に関する市民講演等への参加の意向	6
(6) 暴力団排除条例に関する市民講演等へ参加したくない理由	7
(7) 暴力団排除への関心の程度	8
(8) 暴力団に関する情報の入手方法	9
(9) 暴力団をどのような存在と考えるか	10
(10) 報道の中で暴力団(員)に対する脅威を感じた経験の有無	11
(11) 報道の中で脅威と感じた内容	12
(12) 実生活の中で暴力団(員)に対する脅威を感じた(被害を受けた)経験の有無	13
(13) 実生活の中で脅威と感じた(被害を受けた)内容	14
(14) 暴力団被害に関する相談窓口(相談ダイヤル)の認知度	15
(15) 暴力団を利用してのもめごとの処理についての考え	16
(16) 暴力団対策法の認知度	17
(17) 暴力団員から被害を受けた場合の対応	18
(18) 不当な要求を排除するために必要な環境	19
(19) 暴力団排除に向けて今後必要な行政の施策	20
(20) 市民の暴力団排除意識を高揚させるためのPR方法	21
(21) 行政が主催する暴力追放に関する活動への参加の意向	22
(22) 行政が主催する暴力追放に関する活動へ参加したくない理由	23
(23) 青少年の非行問題と暴力団の関係の認知度	24
(24) 行政が行う青少年に向けた暴力団排除の取組みに対する考え	25
(25) 行政が行う青少年に向けた暴力団排除の取組みに賛成しない理由	26
(26) 暴力追放推進施策に関する意見	27
IV 全体考察	29

## I 調査の概要

調査対象者	市政モニター	149人
回答者数	134人	(回収率 90%)
調査実施日	平成26年	9月12日～平成26年10月 3日
実施方法	調査票による郵送及びインターネット調査	
調査実施課	市民文化スポーツ局広聴課	TEL 582-2527
調査依頼課	市民文化スポーツ局安全・安心相談センター	TEL 582-2427

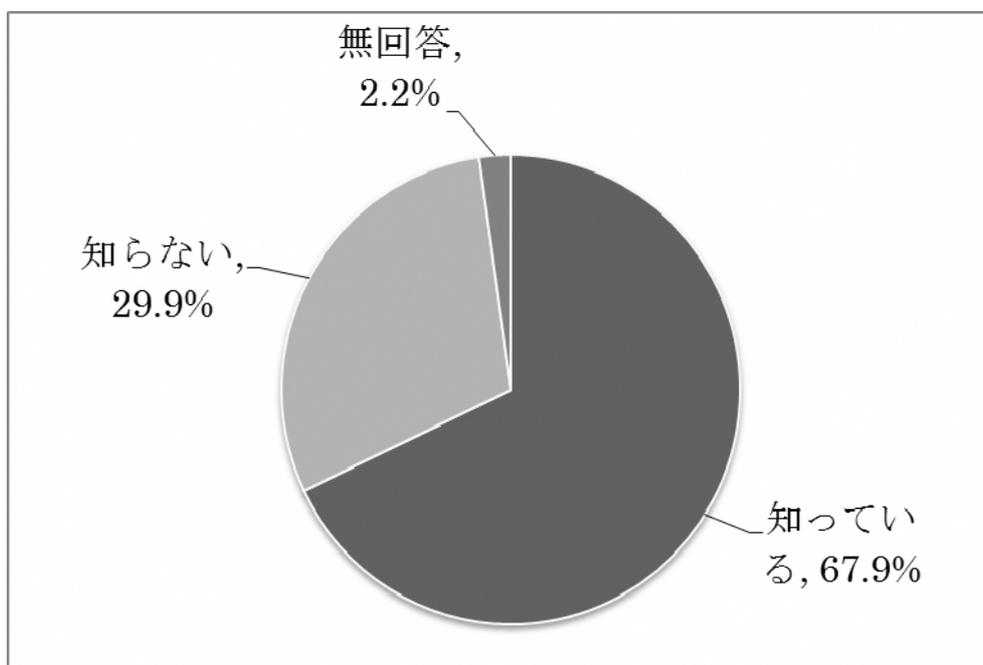
## II 市政モニターの構成

区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	149 ( 100.0% )	49 ( 32.9% )	100 ( 67.1% )	区 別			
				門司区	10 ( 6.7% )	3 ( 2.0% )	7 ( 4.7% )
20歳代	9 ( 6.0% )	5 ( 3.4% )	4 ( 2.7% )	小倉北区	19 ( 12.8% )	8 ( 5.4% )	11 ( 7.4% )
30歳代	37 ( 24.8% )	4 ( 2.7% )	33 ( 22.1% )	小倉南区	24 ( 16.1% )	4 ( 2.7% )	20 ( 13.4% )
40歳代	29 ( 19.5% )	11 ( 7.4% )	18 ( 12.1% )	若松区	19 ( 12.8% )	6 ( 4.0% )	13 ( 8.7% )
50歳代	19 ( 12.8% )	1 ( 0.7% )	18 ( 12.1% )	八幡東区	19 ( 12.8% )	7 ( 4.7% )	12 ( 8.1% )
60歳代	33 ( 22.1% )	16 ( 10.7% )	17 ( 11.4% )	八幡西区	48 ( 32.2% )	17 ( 11.4% )	31 ( 20.8% )
70歳以上	22 ( 14.8% )	12 ( 8.1% )	10 ( 6.7% )	戸畑区	10 ( 6.7% )	4 ( 2.7% )	6 ( 4.0% )

※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

### Ⅲ 調査結果

問1 あなたは平成22年4月に施行された、事業者から暴力団への悪質な利益供与等に対し、全国初の罰則を定めた「福岡県暴力団排除条例」をご存じですか？



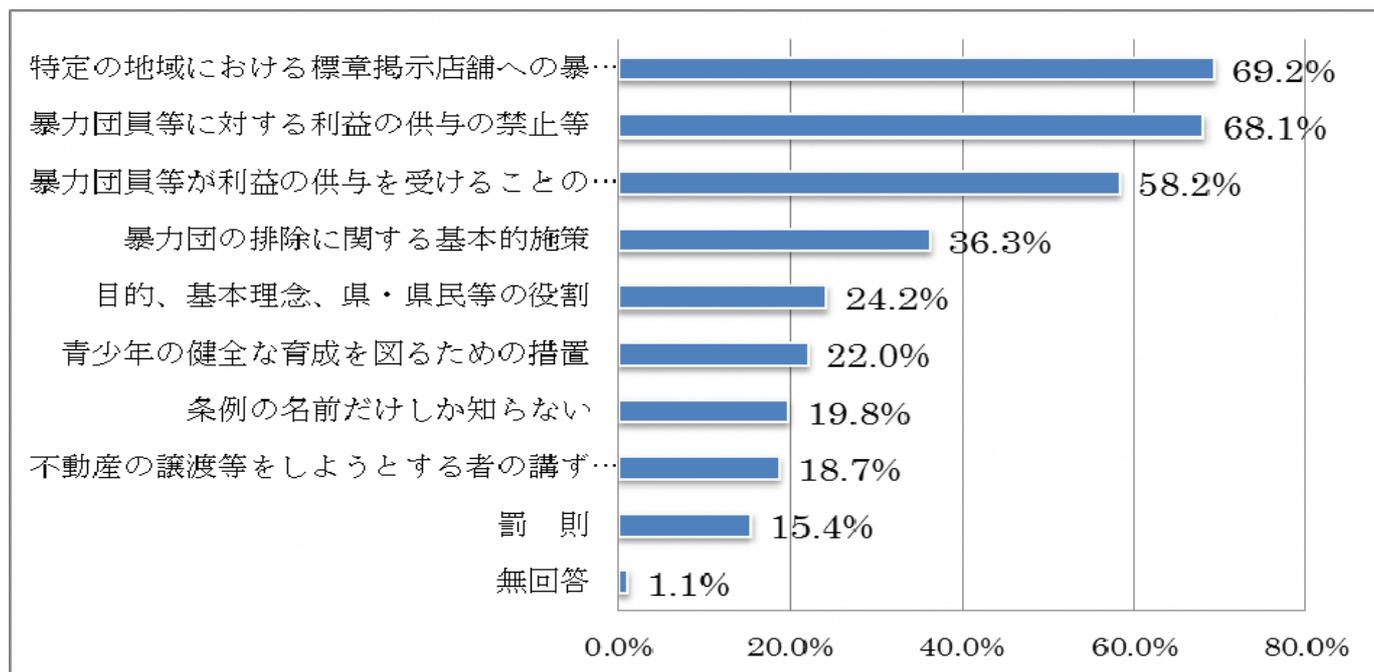
		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		134人	67.9%	29.9%	2.2%
性別	男性	44人	79.5%	18.2%	2.3%
	女性	90人	62.2%	35.6%	2.2%
年齢別	20歳代	8人	87.5%	12.5%	0.0%
	30歳代	31人	61.3%	38.7%	0.0%
	40歳代	28人	60.7%	28.6%	10.7%
	50歳代	18人	66.7%	33.3%	0.0%
	60歳代	30人	76.7%	23.3%	0.0%
	70歳以上	19人	68.4%	31.6%	0.0%
区別	門司区	10人	70.0%	30.0%	0.0%
	小倉北区	14人	57.1%	35.7%	7.1%
	小倉南区	22人	54.5%	40.9%	4.5%
	若松区	18人	72.2%	27.8%	0.0%
	八幡東区	17人	70.6%	29.4%	0.0%
	八幡西区	46人	71.7%	26.1%	2.2%
	戸畑区	7人	85.7%	14.3%	0.0%

福岡県暴力団排除条例の全体の認知度は67.9%であり、男性が79.5%と高い。  
年齢層別に見ると、20歳代が87.5%と最も高く、40歳代の認知度が最も低く60.7%に止まっている。

<問1で「1 知っている」と答えた方のみご回答ください。>

問2 あなたは福岡県暴力団排除条例の内容について、どの程度ご存知ですか？

(知っているもの全て選択してください)

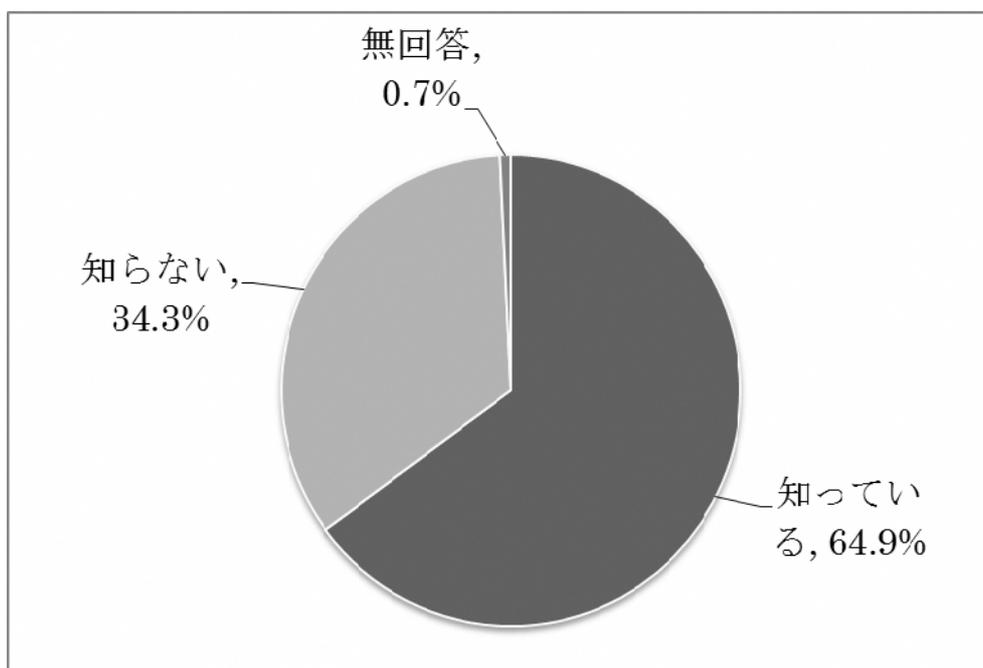


	回答者数	特定の地域における標章掲示店舗への暴力団の立入禁止	暴力団員等に対する利益の供与の禁止等	暴力団員等が利益の供与を受けることの禁止等	暴力団の排除に関する基本的施策	目的、基本理念、県・県民等の役割	青少年の健全な育成を図るための措置	条例の名前だけしか知らない	不動産の譲渡等をしようとする者の講ずべき措置	罰則	無回答	
全体	91人	69.2%	68.1%	58.2%	36.3%	24.2%	22.0%	19.8%	18.7%	15.4%	1.1%	
性別	男性	35人	71.4%	80.0%	68.6%	45.7%	37.1%	25.7%	14.3%	25.7%	2.9%	
	女性	56人	67.9%	60.7%	51.8%	30.4%	16.1%	19.6%	23.2%	14.3%	0.0%	
年齢別	20歳代	7人	85.7%	57.1%	42.9%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%
	30歳代	19人	42.1%	42.1%	42.1%	26.3%	10.5%	5.3%	36.8%	10.5%	15.8%	0.0%
	40歳代	17人	70.6%	82.4%	70.6%	52.9%	29.4%	29.4%	23.5%	29.4%	29.4%	0.0%
	50歳代	12人	58.3%	75.0%	58.3%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	8.3%	0.0%	0.0%
	60歳代	23人	82.6%	73.9%	60.9%	21.7%	26.1%	21.7%	13.0%	21.7%	0.0%	0.0%
	70歳以上	13人	84.6%	76.9%	69.2%	69.2%	53.8%	61.5%	7.7%	15.4%	38.5%	7.7%
区別	門司区	7人	71.4%	57.1%	71.4%	42.9%	0.0%	14.3%	0.0%	28.6%	14.3%	0.0%
	小倉北区	8人	100.0%	87.5%	100.0%	50.0%	37.5%	37.5%	0.0%	12.5%	12.5%	12.5%
	小倉南区	12人	41.7%	50.0%	50.0%	25.0%	25.0%	8.3%	25.0%	16.7%	25.0%	0.0%
	若松区	13人	69.2%	69.2%	38.5%	38.5%	23.1%	23.1%	23.1%	7.7%	15.4%	0.0%
	八幡東区	12人	50.0%	58.3%	33.3%	41.7%	25.0%	25.0%	41.7%	8.3%	16.7%	0.0%
	八幡西区	33人	75.8%	69.7%	63.6%	33.3%	24.2%	24.2%	21.2%	27.3%	15.2%	0.0%
	戸畑区	6人	83.3%	100.0%	66.7%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%

福岡県暴力団排除条例の内容に関する認知度は、「特定の地域における暴力団の排除を推進するための措置」が69.2%、「暴力団員等に対する利益の供与の禁止等」が68.1%、「暴力団員等が利益の供与を受けることの禁止等」が58.2%と高かった。

「青少年の健全な育成を図るための措置」が前回37.7%から22.0%へ認知度が減っていた。

問3 あなたは平成22年7月に市が施行した、「北九州市暴力団排除条例」をご存じですか？

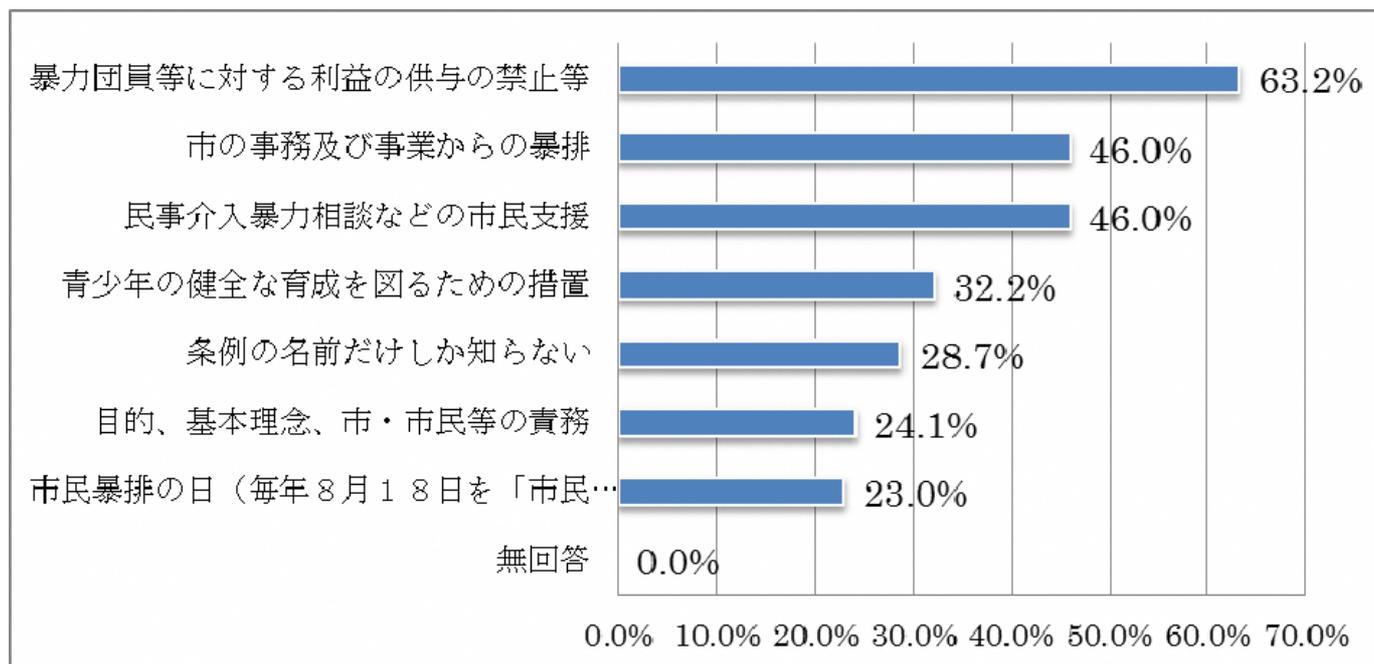


		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		134人	64.9%	34.3%	0.7%
性別	男性	44人	65.9%	31.8%	2.3%
	女性	90人	64.4%	35.6%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	75.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	31人	61.3%	38.7%	0.0%
	40歳代	28人	53.6%	42.9%	3.6%
	50歳代	18人	66.7%	33.3%	0.0%
	60歳代	30人	70.0%	30.0%	0.0%
	70歳以上	19人	73.7%	26.3%	0.0%
区別	門司区	10人	70.0%	30.0%	0.0%
	小倉北区	14人	35.7%	64.3%	0.0%
	小倉南区	22人	54.5%	40.9%	4.5%
	若松区	18人	72.2%	27.8%	0.0%
	八幡東区	17人	64.7%	35.3%	0.0%
	八幡西区	46人	71.7%	28.3%	0.0%
	戸畑区	7人	85.7%	14.3%	0.0%

北九州市暴力団排除条例の全体の認知度は、64.9%であり、前回82.8%から減少した。年齢層別に見ると、20歳代の認知度が最も高く75.0%。一方、40歳代の認知度が最も低く53.6%と約半数は認知していない。

<問3で「1 知っている」と答えた方のみご回答下さい。>

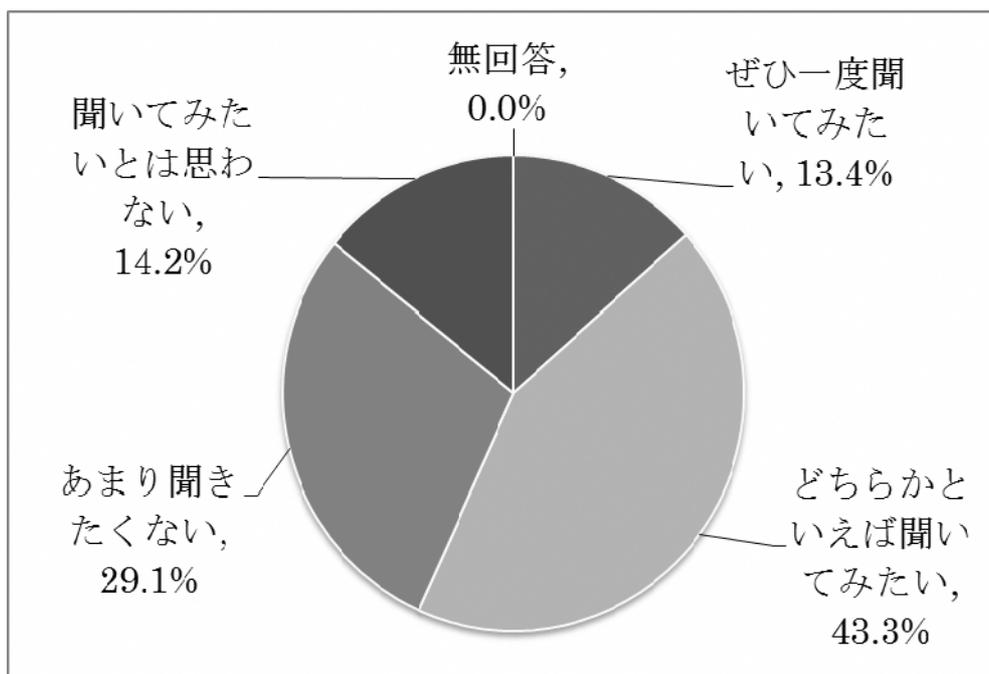
問4 あなたは北九州市暴力団排除条例の内容について、どの程度ご存知ですか？  
(知っているもの全て選択してください)



		回答者数	暴力団員等に対する利益の供与の禁止等	市の事務及び事業からの暴排	民事介入暴力相談などの市民支援	青少年の健全な育成を図るための措置	条例の名前だけしか知らない	目的、基本理念、市・市民等の責務	市民暴排の日（毎年8月18日を「市民暴排の日」と制定）	無回答
全体		87人	63.2%	46.0%	46.0%	32.2%	28.7%	24.1%	23.0%	0.0%
性別	男性	29人	75.9%	58.6%	62.1%	37.9%	17.2%	44.8%	34.5%	0.0%
	女性	58人	56.9%	39.7%	37.9%	29.3%	34.5%	13.8%	17.2%	0.0%
年齢別	20歳代	6人	66.7%	33.3%	16.7%	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%
	30歳代	19人	26.3%	21.1%	26.3%	21.1%	52.6%	10.5%	21.1%	0.0%
	40歳代	15人	73.3%	66.7%	53.3%	40.0%	33.3%	33.3%	20.0%	0.0%
	50歳代	12人	75.0%	50.0%	50.0%	25.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%
	60歳代	21人	66.7%	42.9%	47.6%	33.3%	19.0%	28.6%	19.0%	0.0%
	70歳以上	14人	85.7%	64.3%	71.4%	50.0%	14.3%	42.9%	42.9%	0.0%
区別	門司区	7人	57.1%	42.9%	42.9%	14.3%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%
	小倉北区	5人	80.0%	80.0%	100.0%	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%
	小倉南区	12人	50.0%	41.7%	25.0%	41.7%	41.7%	25.0%	16.7%	0.0%
	若松区	13人	53.8%	38.5%	61.5%	23.1%	23.1%	23.1%	38.5%	0.0%
	八幡東区	11人	63.6%	45.5%	45.5%	36.4%	36.4%	27.3%	27.3%	0.0%
	八幡西区	33人	66.7%	39.4%	39.4%	33.3%	30.3%	24.2%	18.2%	0.0%
	戸畑区	6人	83.3%	83.3%	50.0%	33.3%	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%

北九州市暴力団排除条例の内容に関する認知度は、「暴力団員等に対する利益の供与の禁止等」が63.2%、「市の事務及び事業からの暴排」及び「市民支援」が46.0%の順に高い。一方、「条例の名前だけしか知らない」との回答も28.7%あり、年齢層別に見ると30歳代では52.6%と、半数はその内容までは認知していない。

問5 あなたは福岡県や北九州市の暴力団排除条例について市民講演などを開催するとした場合、参加して内容を聞いてみたいと思いますか？



		回答者数	ぜひ一度聞いてみたい	どちらかといえば聞いてみたい	あまり聞きたくない	聞いてみたいとは思わない	無回答
全体		134人	13.4%	43.3%	29.1%	14.2%	0.0%
性別	男性	44人	22.7%	52.3%	11.4%	13.6%	0.0%
	女性	90人	8.9%	38.9%	37.8%	14.4%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	12.5%	37.5%	37.5%	12.5%	0.0%
	30歳代	31人	3.2%	29.0%	45.2%	22.6%	0.0%
	40歳代	28人	14.3%	39.3%	32.1%	14.3%	0.0%
	50歳代	18人	16.7%	38.9%	27.8%	16.7%	0.0%
	60歳代	30人	16.7%	53.3%	16.7%	13.3%	0.0%
	70歳以上	19人	21.1%	63.2%	15.8%	0.0%	0.0%
区別	門司区	10人	10.0%	50.0%	30.0%	10.0%	0.0%
	小倉北区	14人	14.3%	35.7%	42.9%	7.1%	0.0%
	小倉南区	22人	9.1%	31.8%	40.9%	18.2%	0.0%
	若松区	18人	11.1%	33.3%	38.9%	16.7%	0.0%
	八幡東区	17人	5.9%	41.2%	35.3%	17.6%	0.0%
	八幡西区	46人	17.4%	52.2%	15.2%	15.2%	0.0%
	戸畑区	7人	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%

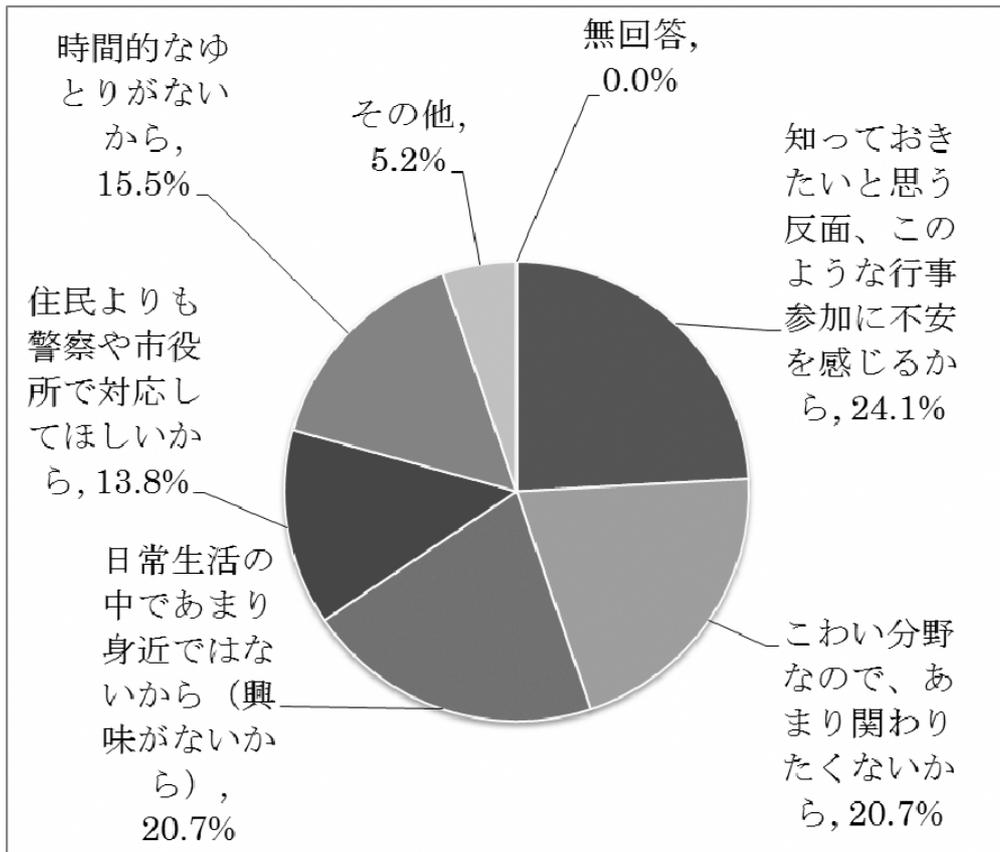
暴力団排除条例についての講演等に対するニーズは、

○ 聞いてみたい層 56.7%

○ 聞いてみたいと思わない層 43.3%

となり、特に70歳以上が84.3%と参加して聞いてみたいとの意向が強い。

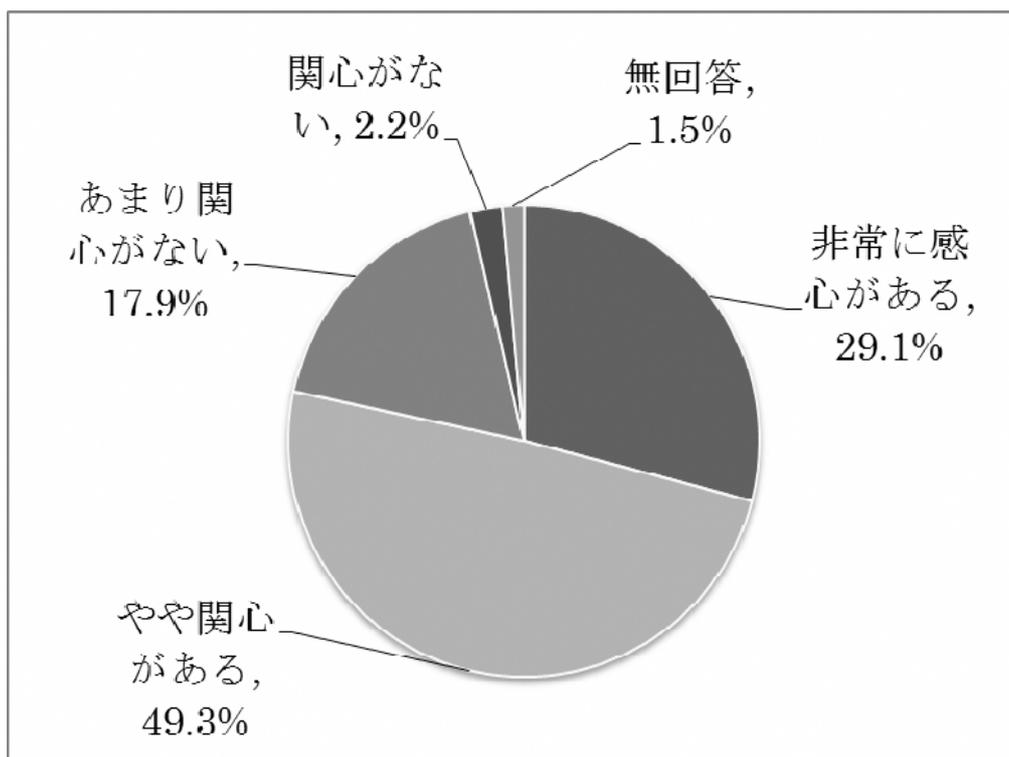
<問5で「3 あまり聞きたくない」「4 聞いてみたいとは思わない」と答えた方のみご回答ください。>  
 問6 その理由は何ですか？（主なものを1つ選択してください）



		回答者数	知っておきたいと思う反面、このような行事参加に不安を感じるから	こわい分野なので、あまり関わりたくないから	日常生活の中であまり身近ではないから（興味がないから）	住民よりも警察や市役所で対応してほしいから	時間的なゆとりがないから	その他	無回答
全体		58人	24.1%	20.7%	20.7%	13.8%	15.5%	5.2%	0.0%
性別	男性	11人	0.0%	9.1%	36.4%	27.3%	9.1%	18.2%	0.0%
	女性	47人	29.8%	23.4%	17.0%	10.6%	17.0%	2.1%	0.0%
年齢別	20歳代	4人	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	21人	33.3%	23.8%	23.8%	9.5%	4.8%	4.8%	0.0%
	40歳代	13人	15.4%	30.8%	0.0%	15.4%	30.8%	7.7%	0.0%
	50歳代	8人	25.0%	12.5%	12.5%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	9人	22.2%	0.0%	55.6%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%
	70歳以上	3人	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	10人	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	14人	14.3%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%
	小倉南区	22人	23.1%	15.4%	23.1%	15.4%	23.1%	0.0%	0.0%
	若松区	18人	30.0%	10.0%	10.0%	20.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	17人	33.3%	44.4%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%
	八幡西区	46人	7.1%	21.4%	50.0%	14.3%	7.1%	0.0%	0.0%
	戸畑区	7人	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

暴力団排除条例についての講演等について、【聞いてみたいと思わない層】の理由としては、このような行事参加に不安を感じたり、こわい分野なので関わりたくないとする【不安層】が44.8%を占め、次いで「身近ではなく興味がない」20.7%、「時間的なゆとりがない」15.5%の順となっている。

問7 あなたは暴力団排除について日頃、どの程度関心をお持ちですか？



		回答者数	非常に感心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	無回答
全体		134人	29.1%	49.3%	17.9%	2.2%	1.5%
性別	男性	44人	47.7%	38.6%	6.8%	4.5%	2.3%
	女性	90人	20.0%	54.4%	23.3%	1.1%	1.1%
年齢別	20歳代	8人	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	0.0%
	30歳代	31人	9.7%	51.6%	32.3%	6.5%	0.0%
	40歳代	28人	32.1%	42.9%	21.4%	0.0%	3.6%
	50歳代	18人	44.4%	33.3%	16.7%	0.0%	5.6%
	60歳代	30人	36.7%	60.0%	3.3%	0.0%	0.0%
	70歳以上	19人	26.3%	68.4%	5.3%	0.0%	0.0%
区別	門司区	10人	30.0%	60.0%	0.0%	0.0%	10.0%
	小倉北区	14人	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%
	小倉南区	22人	9.1%	50.0%	31.8%	4.5%	4.5%
	若松区	18人	22.2%	50.0%	27.8%	0.0%	0.0%
	八幡東区	17人	29.4%	58.8%	5.9%	5.9%	0.0%
	八幡西区	46人	26.1%	54.3%	17.4%	2.2%	0.0%
	戸畑区	7人	71.4%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%

「暴力団排除」に関する関心度については、

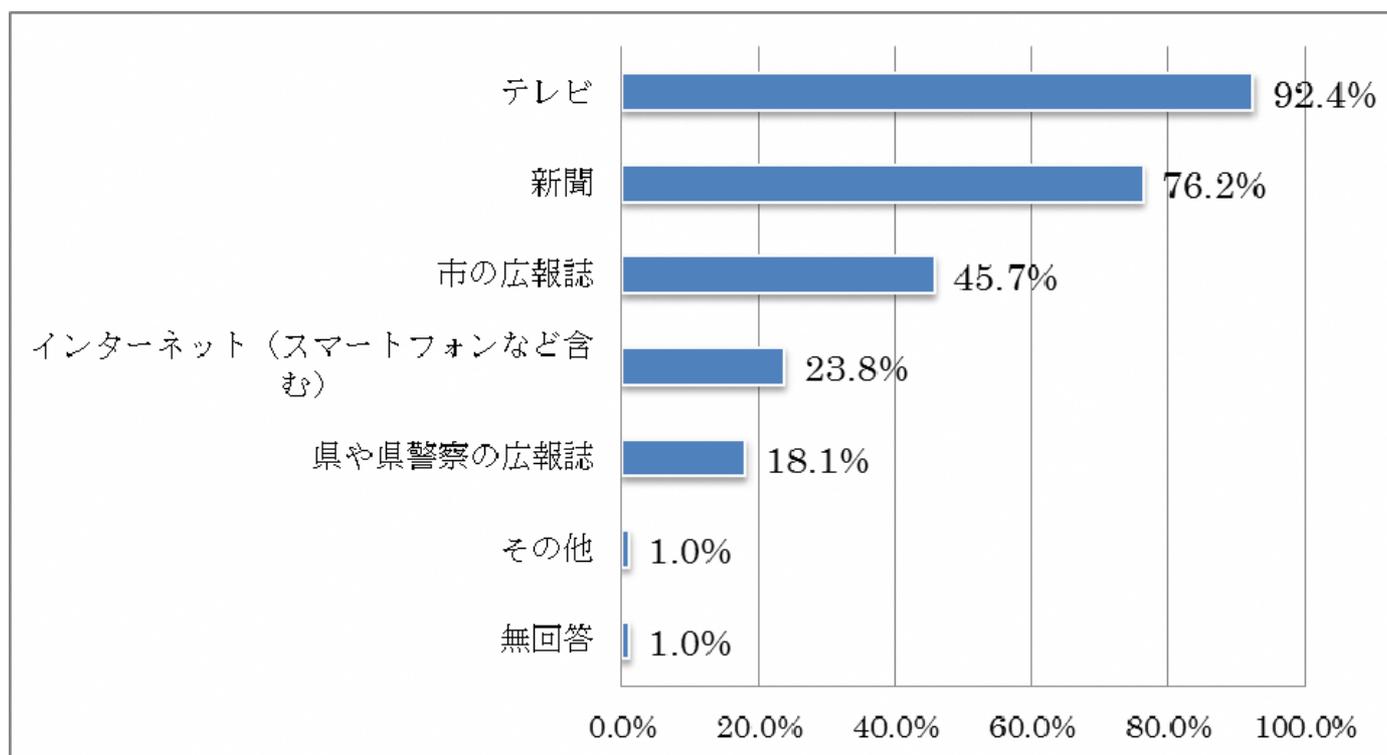
- 関心がある層 78.4%
- 関心がない層 20.1%

となり、特に60歳代が96.7%と非常に関心が高い。

<問7で「1 非常に関心がある」「2 やや関心がある」と答えた方のみご回答ください。>

問8 あなたは暴力団に関する情報を普段どういったメディアから入手していますか？

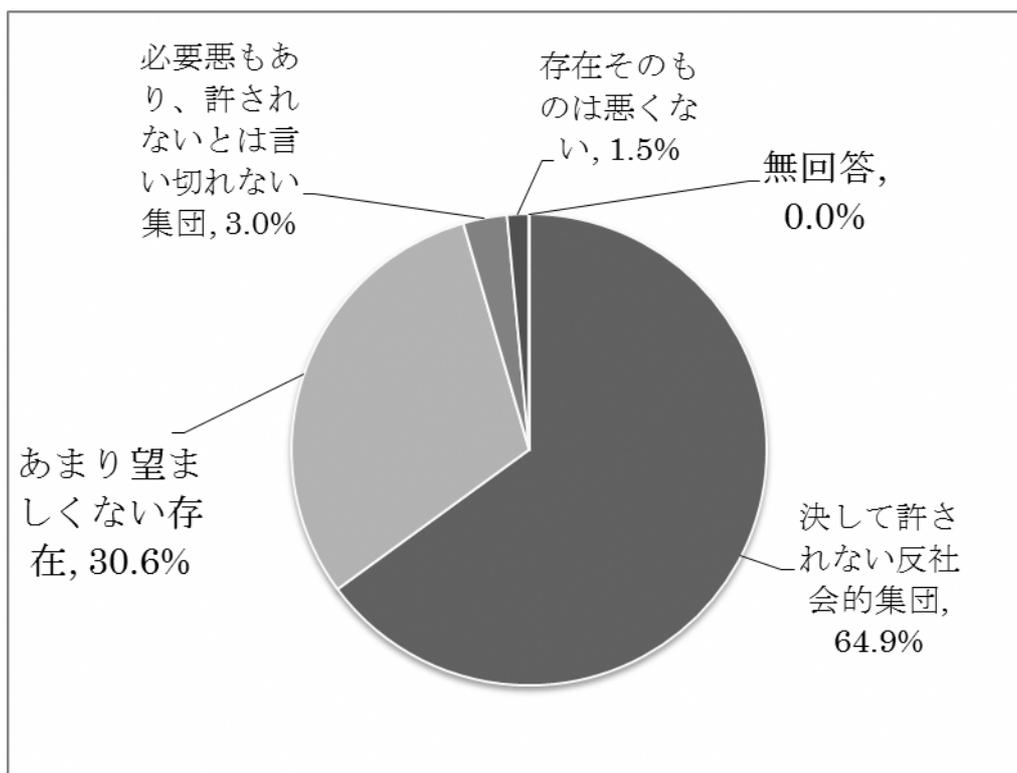
(あてはまるものを全て選択してください)



		回答者数	テレビ	新聞	市の広報誌	インターネット (スマートフォンなど含む)	県や県警察の広報誌	その他	無回答
全体		105人	92.4%	76.2%	45.7%	23.8%	18.1%	1.0%	1.0%
性別	男性	38人	92.1%	86.8%	50.0%	26.3%	18.4%	2.6%	0.0%
	女性	67人	92.5%	70.1%	43.3%	22.4%	17.9%	0.0%	1.5%
年齢別	20歳代	4人	100.0%	75.0%	25.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	19人	94.7%	57.9%	36.8%	47.4%	26.3%	0.0%	0.0%
	40歳代	21人	85.7%	61.9%	23.8%	42.9%	23.8%	0.0%	0.0%
	50歳代	14人	100.0%	85.7%	50.0%	7.1%	28.6%	0.0%	0.0%
	60歳代	29人	93.1%	82.8%	51.7%	10.3%	10.3%	0.0%	3.4%
	70歳以上	18人	88.9%	94.4%	72.2%	0.0%	5.6%	5.6%	0.0%
区別	門司区	9人	88.9%	66.7%	33.3%	22.2%	11.1%	0.0%	11.1%
	小倉北区	12人	91.7%	75.0%	58.3%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	13人	100.0%	76.9%	46.2%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%
	若松区	13人	84.6%	92.3%	38.5%	15.4%	15.4%	0.0%	0.0%
	八幡東区	15人	86.7%	80.0%	33.3%	26.7%	46.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	37人	94.6%	70.3%	56.8%	21.6%	21.6%	2.7%	0.0%
	戸畑区	6人	100.0%	83.3%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

暴力団排除に「関心がある層」の普段の情報の入手元は、「テレビ」92.4%、「新聞」76.2%とマスメディアが大半を占め、次いで「市の広報紙」45.7%の順となっている。

問9 あなたは現在、暴力団をどのような存在とお考えですか？



		回答者数	決して許されない反社会的集団	あまり望ましくない存在	必要悪もあり、許されないとは言い切れない集団	存在そのものは悪くない	無回答
全体		134人	64.9%	30.6%	3.0%	1.5%	0.0%
性別	男性	44人	61.4%	34.1%	2.3%	2.3%	0.0%
	女性	90人	66.7%	28.9%	3.3%	1.1%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	48.4%	38.7%	9.7%	3.2%	0.0%
	40歳代	28人	60.7%	32.1%	3.6%	3.6%	0.0%
	50歳代	18人	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	19人	78.9%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	10人	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	14人	85.7%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%
	小倉南区	22人	59.1%	27.3%	4.5%	9.1%	0.0%
	若松区	18人	61.1%	38.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	17人	64.7%	29.4%	5.9%	0.0%	0.0%
	八幡西区	46人	60.9%	37.0%	2.2%	0.0%	0.0%
	戸畑区	7人	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%

暴力団に対する認識は、

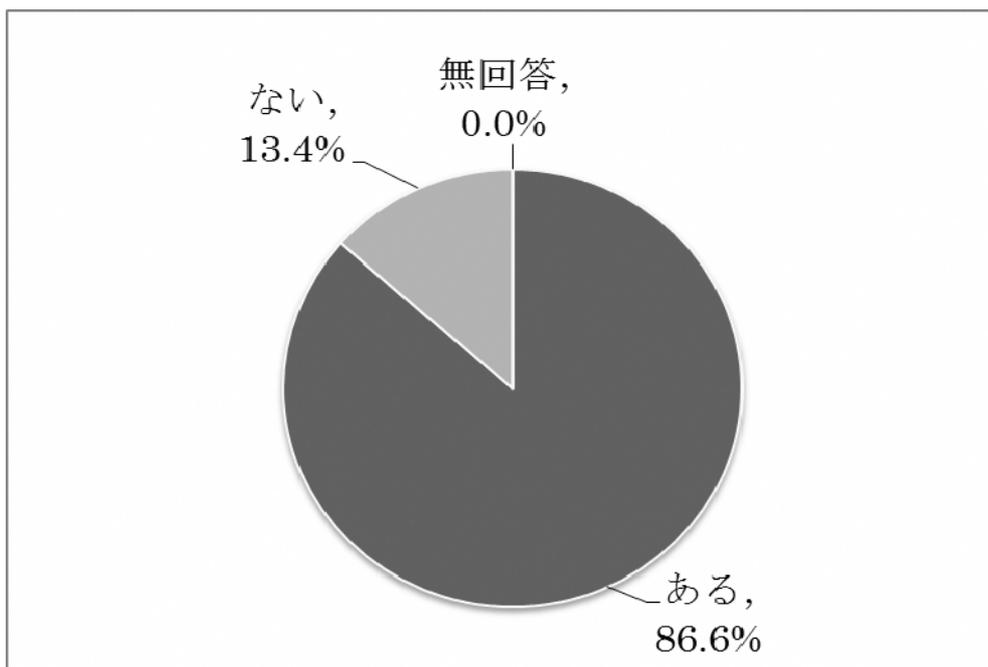
○ 決して許されない反社会的集団 64.9%

○ あまり望ましくない存在 30.6%

と95.5%の方が「否定的」である。

なお「必要悪でもあり許されないとは言い切れない」、「存在そのものは悪くない」との回答は合わせて全体の4.5%ある。

問10 あなたは「これまでのテレビ・新聞などの報道」の中で、暴力団（員）に対する脅威を感じたことがありますか？

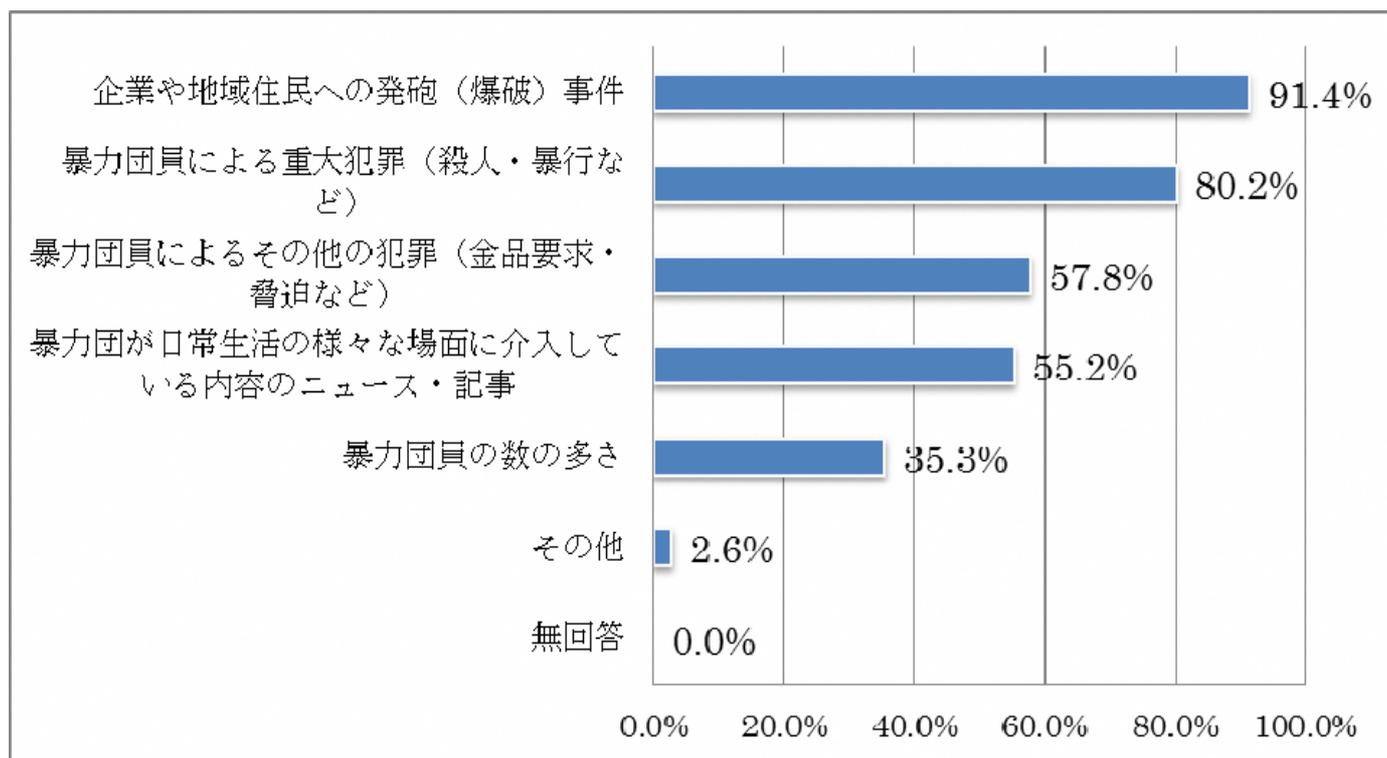


		回答者数	ある	ない	無回答
全体		134人	86.6%	13.4%	0.0%
性別	男性	44人	79.5%	20.5%	0.0%
	女性	90人	90.0%	10.0%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	87.5%	12.5%	0.0%
	30歳代	31人	90.3%	9.7%	0.0%
	40歳代	28人	82.1%	17.9%	0.0%
	50歳代	18人	94.4%	5.6%	0.0%
	60歳代	30人	83.3%	16.7%	0.0%
	70歳以上	19人	84.2%	15.8%	0.0%
区別	門司区	10人	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	14人	78.6%	21.4%	0.0%
	小倉南区	22人	95.5%	4.5%	0.0%
	若松区	18人	88.9%	11.1%	0.0%
	八幡東区	17人	88.2%	11.8%	0.0%
	八幡西区	46人	78.3%	21.7%	0.0%
	戸畑区	7人	100.0%	0.0%	0.0%

「報道」を通じた暴力団に対する脅威は、86.6%の回答者が感じている。  
 また、性別でみると、男性79.5%に対し、女性90.0%と男性よりも女性が脅威を感じている結果となった。

<問10で「1 ある」と答えた方のみご回答ください。>

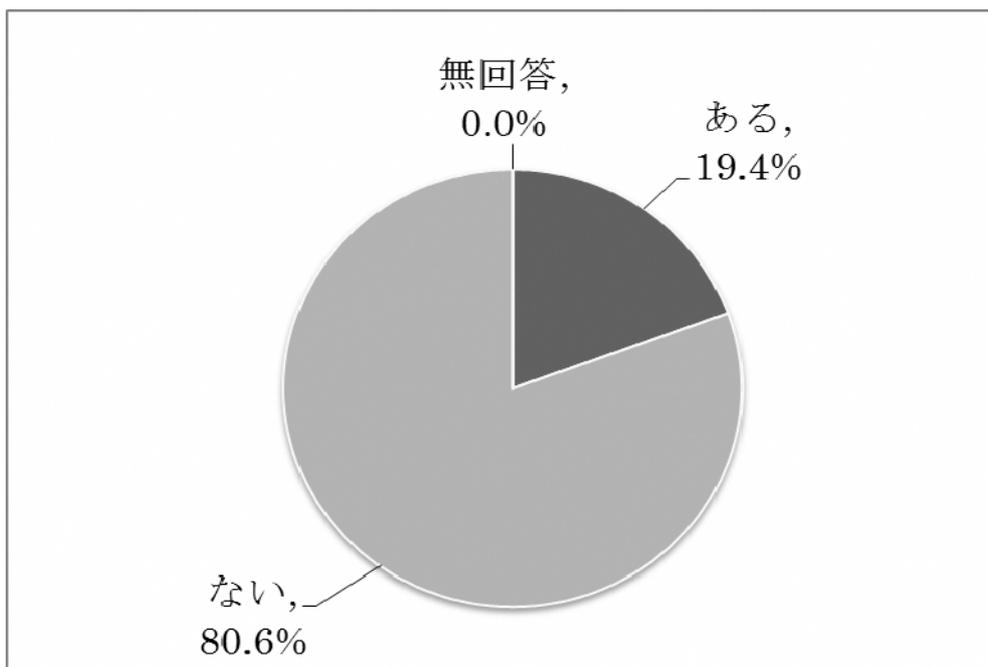
問11 あなたが脅威と感じたことは何ですか？（複数回答可）



		回答者数	企業や地域住民への発砲（爆破）事件	暴力団員による重大犯罪（殺人・暴行など）	暴力団員によるその他の犯罪（金品要求・脅迫など）	暴力団が日常生活の様々な場面に介入している内容のニュース・記事	暴力団員の数の多さ	その他	無回答
全体		116人	91.4%	80.2%	57.8%	55.2%	35.3%	2.6%	0.0%
性別	男性	35人	94.3%	74.3%	60.0%	62.9%	40.0%	5.7%	0.0%
	女性	81人	90.1%	82.7%	56.8%	51.9%	33.3%	1.2%	0.0%
年齢別	20歳代	7人	85.7%	85.7%	42.9%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%
	30歳代	28人	92.9%	75.0%	39.3%	50.0%	35.7%	0.0%	0.0%
	40歳代	23人	91.3%	69.6%	52.2%	47.8%	43.5%	4.3%	0.0%
	50歳代	17人	100.0%	100.0%	76.5%	70.6%	23.5%	0.0%	0.0%
	60歳代	25人	88.0%	84.0%	68.0%	64.0%	32.0%	8.0%	0.0%
	70歳以上	16人	87.5%	75.0%	68.8%	56.3%	43.8%	0.0%	0.0%
区別	門司区	10人	90.0%	90.0%	80.0%	70.0%	70.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	11人	90.9%	81.8%	54.5%	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%
	小倉南区	21人	85.7%	81.0%	57.1%	47.6%	23.8%	4.8%	0.0%
	若松区	16人	100.0%	81.3%	62.5%	56.3%	31.3%	0.0%	0.0%
	八幡東区	15人	86.7%	80.0%	73.3%	53.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	36人	91.7%	75.0%	41.7%	50.0%	41.7%	2.8%	0.0%
	戸畑区	7人	100.0%	85.7%	71.4%	57.1%	14.3%	14.3%	0.0%

報道の中で暴力団を脅威と感じた回答者について、その内容を見ると、90%以上が「企業や地域住民への発砲（爆破事件）」を選択しており、次いで、「暴力団員による重大犯罪（殺人・暴行など）」が80%以上となっている。

問12 あなたは「最近5年間の実生活」の中で、暴力団（員）に対する脅威を感じた（もしくは暴力団員からの被害を受けた）ことがありますか？

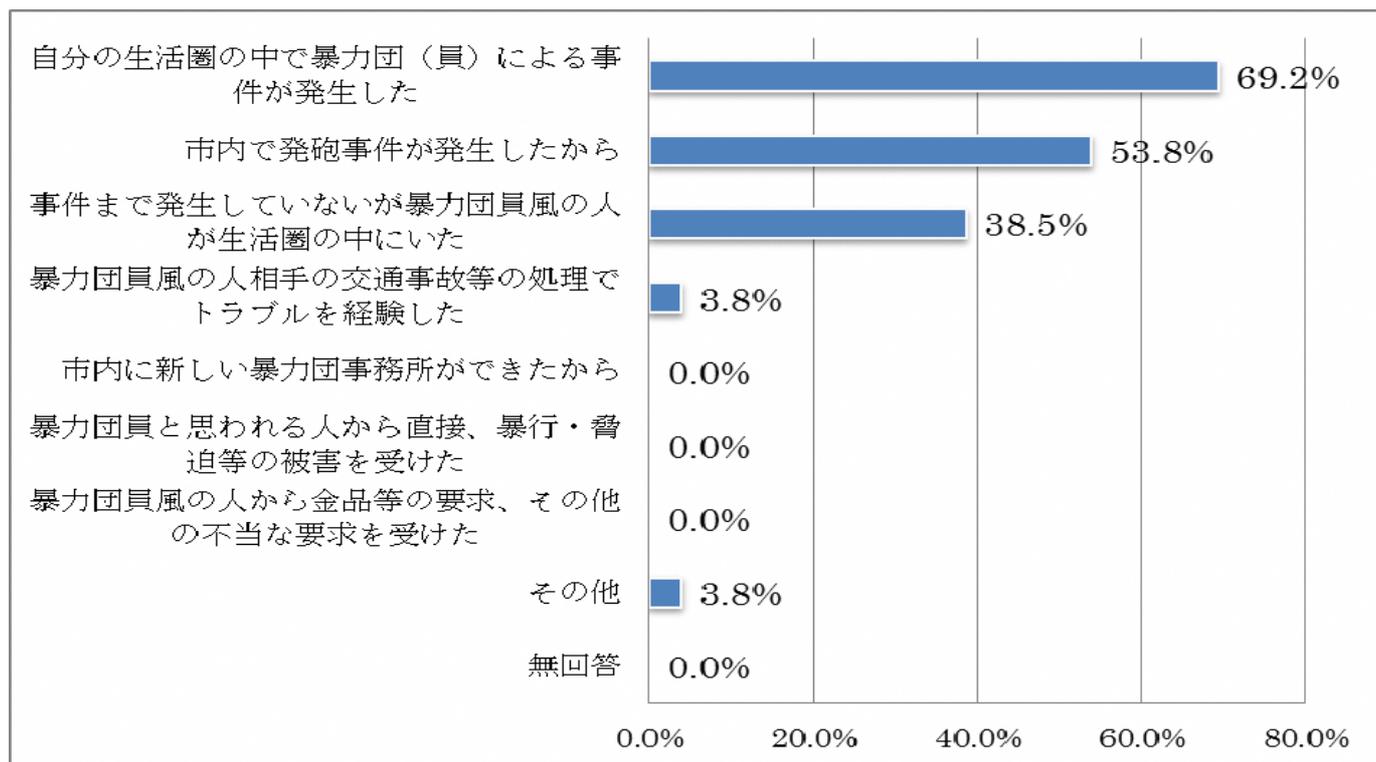


		回答者数	ある	ない	無回答
全体		134人	19.4%	80.6%	0.0%
性別	男性	44人	25.0%	75.0%	0.0%
	女性	90人	16.7%	83.3%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	25.0%	75.0%	0.0%
	30歳代	31人	35.5%	64.5%	0.0%
	40歳代	28人	21.4%	78.6%	0.0%
	50歳代	18人	5.6%	94.4%	0.0%
	60歳代	30人	10.0%	90.0%	0.0%
	70歳以上	19人	15.8%	84.2%	0.0%
区別	門司区	10人	10.0%	90.0%	0.0%
	小倉北区	14人	28.6%	71.4%	0.0%
	小倉南区	22人	18.2%	81.8%	0.0%
	若松区	18人	16.7%	83.3%	0.0%
	八幡東区	17人	17.6%	82.4%	0.0%
	八幡西区	46人	17.4%	82.6%	0.0%
	戸畑区	7人	42.9%	57.1%	0.0%

「実生活」の中での暴力団に対する脅威は、19.4%と5人に1人が感じており、主に30歳代に多い結果となった。

<問12で「1 ある」と答えた方のみご回答ください。>

問13 あなたが脅威と感じた（もしくは被害を受けた）ことは何ですか？（複数回答可）



		回答者数	自分の生活圏の中で暴力団（員）による事件が発生した	市内で発砲事件が発生したから	事件まで発生していないが暴力団員風の人が生活圏の中にいた	暴力団員風の人相手の交通事故等の処理でトラブルを経験した	市内に新しい暴力団事務所ができたから	暴力団員と思われる人から直接、暴行・脅迫等の被害を受けた	暴力団員風の人から金品等の要求、その他の不当な要求を受けた	その他	無回答
全体		26人	69.2%	53.8%	38.5%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%
性別	男性	11人	63.6%	72.7%	54.5%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	15人	73.3%	40.0%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%
年齢別	20歳代	2人	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	81.8%	54.5%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	6人	83.3%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	60歳代	3人	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	3人	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	小倉北区	4人	75.0%	75.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	4人	75.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	3人	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	3人	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	8人	87.5%	50.0%	50.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	3人	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

実生活の中で暴力団を脅威と感じた回答者（26人）について、その内容（複数回答）を見ると、「自分の生活圏の中で暴力団（員）による事件が発生した」、「市内で発砲事件が発生したから」がいずれも50%以上と高かった。

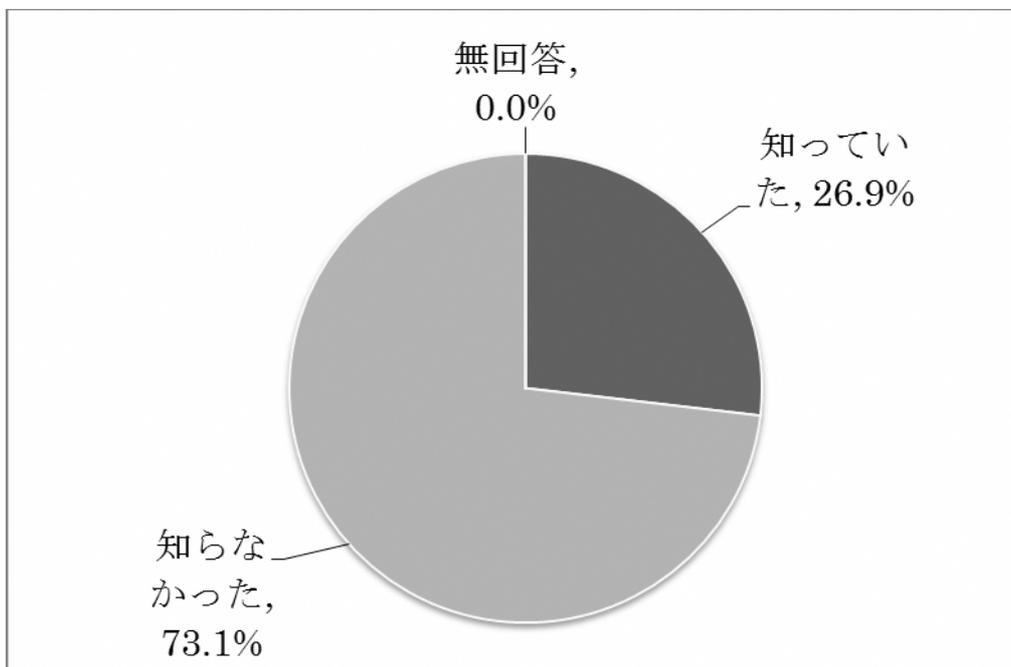
また、「暴力団員風の人相手の交通事故等の処理でトラブルを経験した」が3.8%と、直接の被害経験も回答されている。

問14 あなた自身が暴力団員等から被害を受けた場合や受けるおそれがある場合の専門相談窓口として現在、

○北九州市安全・安心相談センター（電話582-2140（ツ休-））【北九州市】

○暴力追放ダイヤル（電話582-8930（ヤザゼロ））【福岡県警察】

などがありますが、このような相談窓口（相談ダイヤル）をご存知でしたか？

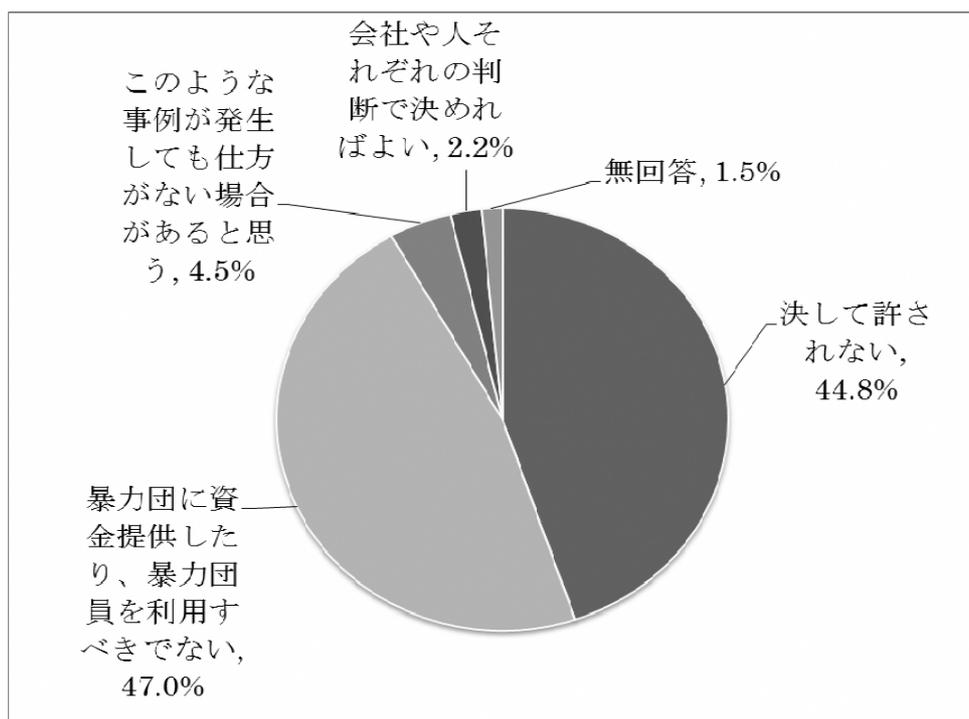


		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		134人	26.9%	73.1%	0.0%
性別	男性	44人	29.5%	70.5%	0.0%
	女性	90人	25.6%	74.4%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	12.5%	87.5%	0.0%
	30歳代	31人	22.6%	77.4%	0.0%
	40歳代	28人	17.9%	82.1%	0.0%
	50歳代	18人	38.9%	61.1%	0.0%
	60歳代	30人	23.3%	76.7%	0.0%
	70歳以上	19人	47.4%	52.6%	0.0%
区別	門司区	10人	20.0%	80.0%	0.0%
	小倉北区	14人	28.6%	71.4%	0.0%
	小倉南区	22人	13.6%	86.4%	0.0%
	若松区	18人	33.3%	66.7%	0.0%
	八幡東区	17人	41.2%	58.8%	0.0%
	八幡西区	46人	23.9%	76.1%	0.0%
	戸畑区	7人	42.9%	57.1%	0.0%

「北九州市 安全・安心相談センター」や「福岡県警察 暴力追放ダイヤル」の認知度は26.9%であり、前回36.7%から減っている。

特に40歳代の認知度が低い結果となった。

問15 現在、会社や個人で、暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用して、もめごとの処理を行う事例がありますが、あなたはこのような行為について、どう考えますか？



		回答者数	決して許されない	暴力団に資金提供したり、暴力団員を利用すべきでない	このように事例が発生しても仕方がない場合があると思う	会社や人それぞれの判断で決めればよい	無回答
全体		134人	44.8%	47.0%	4.5%	2.2%	1.5%
性別	男性	44人	50.0%	40.9%	4.5%	2.3%	2.3%
	女性	90人	42.2%	50.0%	4.4%	2.2%	1.1%
年齢別	20歳代	8人	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	45.2%	41.9%	9.7%	3.2%	0.0%
	40歳代	28人	39.3%	50.0%	7.1%	3.6%	0.0%
	50歳代	18人	44.4%	50.0%	0.0%	0.0%	5.6%
	60歳代	30人	56.7%	36.7%	3.3%	3.3%	0.0%
	70歳以上	19人	47.4%	47.4%	0.0%	0.0%	5.3%
区別	門司区	10人	50.0%	40.0%	0.0%	10.0%	0.0%
	小倉北区	14人	57.1%	28.6%	7.1%	0.0%	7.1%
	小倉南区	22人	27.3%	54.5%	9.1%	4.5%	4.5%
	若松区	18人	33.3%	61.1%	5.6%	0.0%	0.0%
	八幡東区	17人	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	46人	47.8%	45.7%	4.3%	2.2%	0.0%
	戸畑区	7人	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%

会社や個人で、暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用して、もめごとの処理を行うことに対しては、「決して許されない」「暴力団に資金提供したり、暴力団員を利用すべきでない」とする「否定層」が91.8%を占めた。

なお、「このように事例が発生しても仕方がない場合があると思う」との回答も4.5%あった。

問16 暴力団対策法（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律）では、指定暴力団の構成員が、

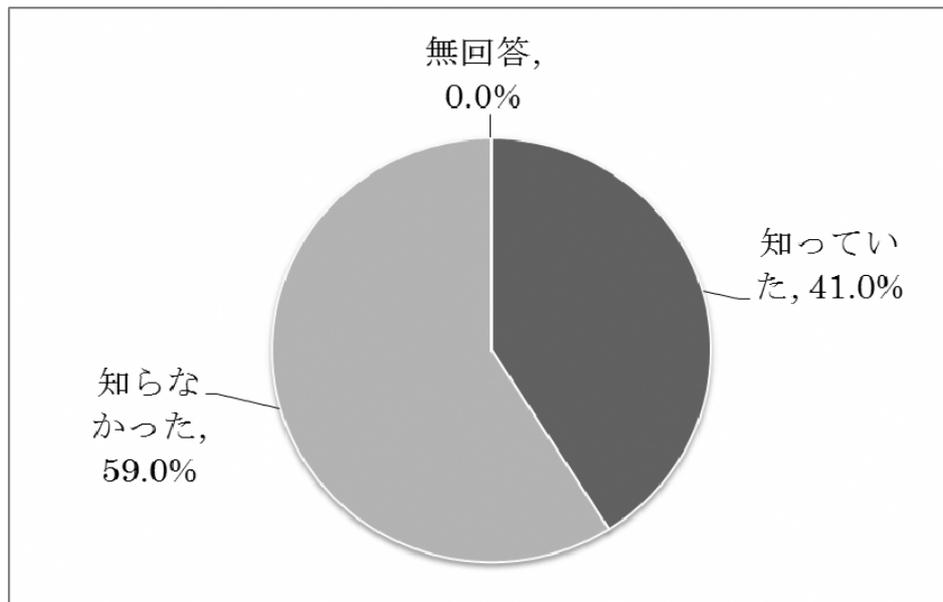
「人の弱みにつけ込んで口止め料を要求する行為」

「交通事故等の示談に介入し、金品等を要求する行為」

「買った商品や受けたサービスの欠陥に因縁をつけて金品等を要求する行為」

など21の行為が禁止され、繰り返し行われるおそれがある場合には、公安委員会または警察署から「中止命令」（従わない場合は逮捕等）を発出できることとなっています。

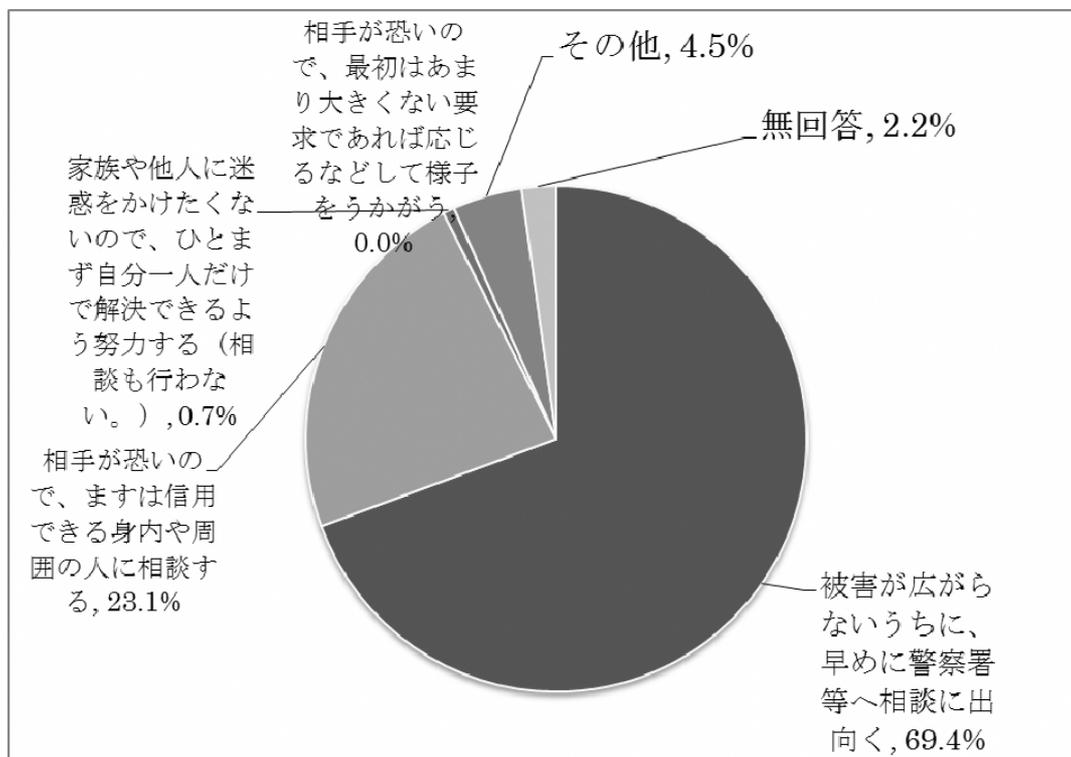
あなたはこのような制度をご存知でしたか？



		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		134人	41.0%	59.0%	0.0%
性別	男性	44人	61.4%	38.6%	0.0%
	女性	90人	31.1%	68.9%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	25.0%	75.0%	0.0%
	30歳代	31人	22.6%	77.4%	0.0%
	40歳代	28人	32.1%	67.9%	0.0%
	50歳代	18人	50.0%	50.0%	0.0%
	60歳代	30人	56.7%	43.3%	0.0%
	70歳以上	19人	57.9%	42.1%	0.0%
区別	門司区	10人	20.0%	80.0%	0.0%
	小倉北区	14人	42.9%	57.1%	0.0%
	小倉南区	22人	27.3%	72.7%	0.0%
	若松区	18人	38.9%	61.1%	0.0%
	八幡東区	17人	23.5%	76.5%	0.0%
	八幡西区	46人	54.3%	45.7%	0.0%
	戸畑区	7人	71.4%	28.6%	0.0%

暴力団対策法（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律）に規定された「中止命令」についての認知度は、41.0%であった。

問17 「問16」のような制度が有効に機能するためには、まずは暴力団員から被害を受けた、もしくは受けそうな方が勇気をもって警察署等へ相談することが必要となりますが、あなたがそのような事例に巻き込まれた場合、まずはどのように行動されますか。  
(次の中から1つ選択してください)

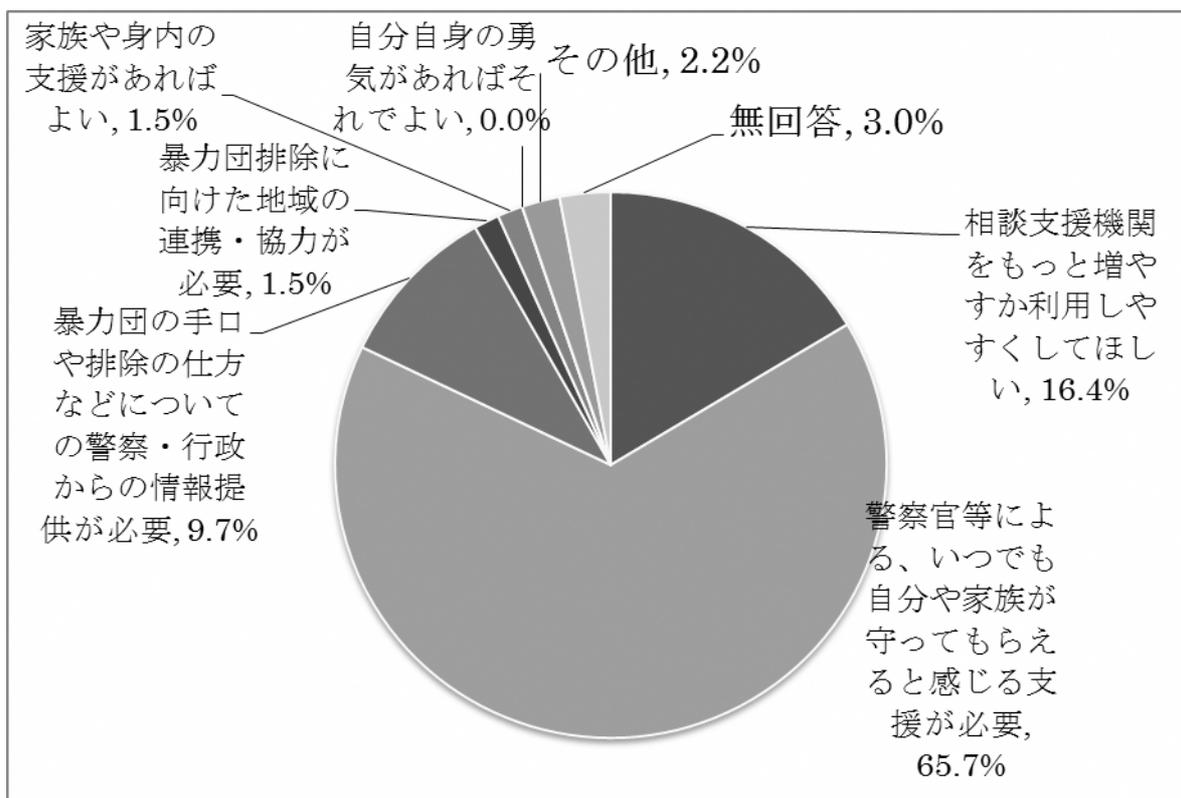


		回答者数	被害が広がらないうちに、早めに警察署等へ相談に出向く	相手が恐いのので、まずは信用できる身内や周囲の人に相談する	家族や他人に迷惑をかけたくない	相手が恐いのので、最初はあまり大きくない要求であれば応じるなどして様子を見ようとする	その他	無回答
全体		134人	69.4%	23.1%	0.7%	0.0%	4.5%	2.2%
性別	男性	44人	79.5%	11.4%	0.0%	0.0%	4.5%	4.5%
	女性	90人	64.4%	28.9%	1.1%	0.0%	4.4%	1.1%
年齢別	20歳代	8人	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	71.0%	25.8%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%
	40歳代	28人	71.4%	17.9%	0.0%	0.0%	10.7%	0.0%
	50歳代	18人	66.7%	22.2%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%
	60歳代	30人	70.0%	23.3%	0.0%	0.0%	3.3%	3.3%
	70歳以上	19人	73.7%	15.8%	0.0%	0.0%	5.3%	5.3%
区別	門司区	10人	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	14人	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	22人	59.1%	22.7%	0.0%	0.0%	13.6%	4.5%
	若松区	18人	66.7%	22.2%	5.6%	0.0%	5.6%	0.0%
	八幡東区	17人	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	46人	73.9%	19.6%	0.0%	0.0%	2.2%	4.3%
	戸畑区	7人	71.4%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%

暴力団員から被害を受けた、もしくは受けそうな場合に、まずはとる行動としては、「被害が広がらないうちに早めに警察署等へ相談に出向く」が69.4%と最も高かった。

なお、「家族等に迷惑をかけたくない

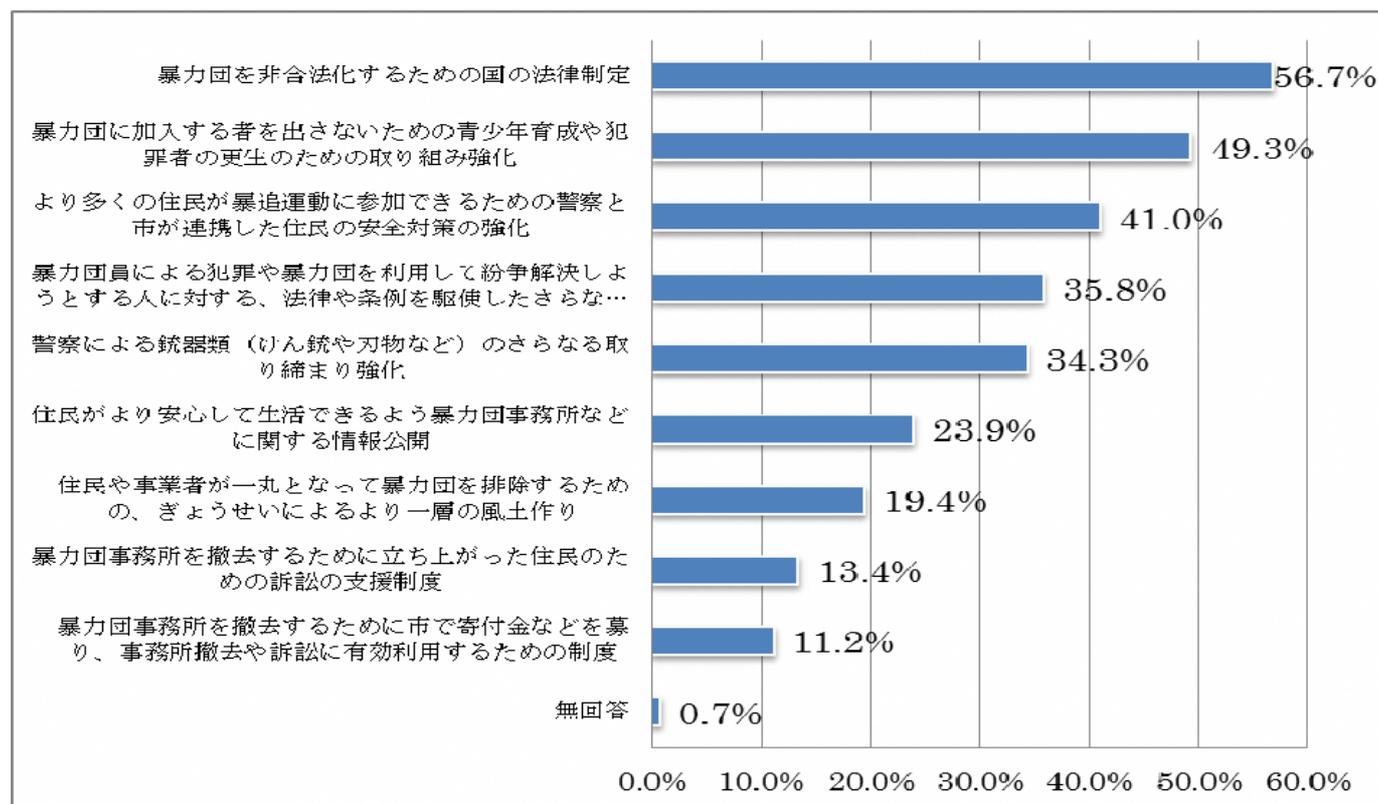
問18 あなた自身が暴力団員等から不当な要求などを受けた場合に、勇気をもって排除することができる環境として、今以上に必要なものは何だとお考えですか？  
 (一番必要だと思うものを1つ選択してください。)



		回答者数	相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい	警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援が必要	暴力団の手口や排除の仕方などについての警察・行政からの情報提供が必要	暴力団排除に向けた地域の連携・協力が必要	家族や身内の支援があればよい	自分自身の勇気があればそれでよい	その他	無回答
全体		134人	16.4%	65.7%	9.7%	1.5%	1.5%	0.0%	2.2%	3.0%
性別	男性	44人	15.9%	68.2%	6.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	6.8%
	女性	90人	16.7%	64.4%	11.1%	2.2%	2.2%	0.0%	2.2%	1.1%
年齢別	20歳代	8人	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	9.7%	77.4%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	6.5%	0.0%
	40歳代	28人	7.1%	71.4%	10.7%	3.6%	3.6%	0.0%	3.6%	0.0%
	50歳代	18人	11.1%	77.8%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	26.7%	53.3%	10.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%
	70歳以上	19人	21.1%	52.6%	10.5%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	10.5%
区別	門司区	10人	20.0%	70.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	14人	28.6%	50.0%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
	小倉南区	22人	4.5%	72.7%	13.6%	0.0%	4.5%	0.0%	4.5%	0.0%
	若松区	18人	22.2%	66.7%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%
	八幡東区	17人	5.9%	76.5%	11.8%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	46人	17.4%	63.0%	8.7%	2.2%	0.0%	0.0%	2.2%	6.5%
	戸畑区	7人	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

自身が暴力団員等から不当な要求などを受けた場合に、勇気をもって排除することができる環境として今以上に必要なものは、「警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援」のみが半数以上の65.7%を占めた。次いで「相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい」との回答が16.4%あった。

問19 あなたは暴力団排除に向けた行政の施策として、今後、特に必要と考えるものは次のうちどれですか？（特に必要だと思うものを3つまで選択してください）

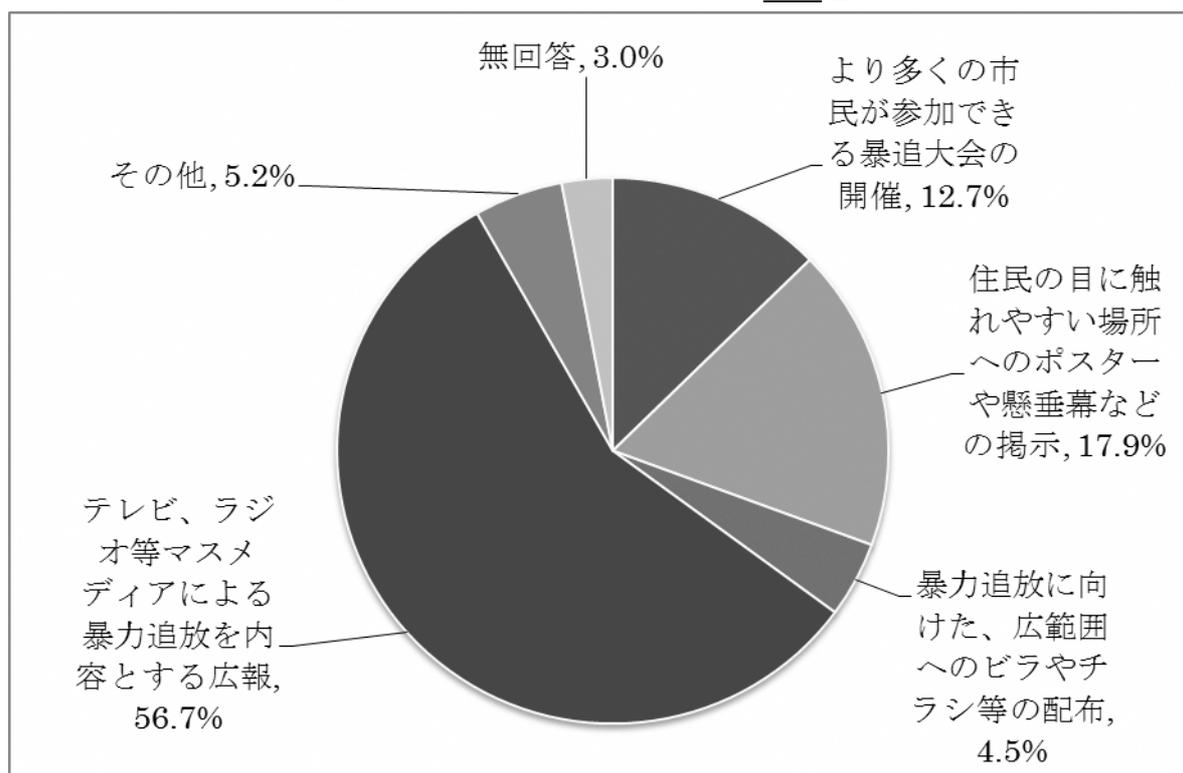


	回答者数	暴力団を非合法化するための国の法律制定	暴力団に加入する者を出さないための青少年育成や犯罪者の更生のための取り組み強化	より多くの住民が暴追運動に参加できるための警察と市が連携した住民の安全対策の強化	暴力団員による犯罪や暴力団を利用して紛争解決しようとする人に対する、法律や条例を駆使したさらなる罰則強化	警察による銃器類（けん銃や刃物など）のさらなる取り締まり強化	住民がより安心して生活できるよう暴力団事務所などに関する情報公開	住民や事業者が一丸となって暴力団を排除するための、ぎょうせいによるより一層の風土作り	暴力団事務所を撤去するために立ち上がった住民のための訴訟の支援制度	暴力団事務所を撤去するために市で寄付金などを募り、事務所撤去や訴訟に有効利用するための制度	無回答	
全体	134人	56.7%	49.3%	41.0%	35.8%	34.3%	23.9%	19.4%	13.4%	11.2%	0.7%	
性別	男性	44人	63.6%	45.5%	43.2%	31.8%	38.6%	22.7%	18.2%	18.2%	11.4%	0.0%
	女性	90人	53.3%	51.1%	40.0%	37.8%	32.2%	24.4%	20.0%	11.1%	11.1%	1.1%
年齢別	20歳代	8人	50.0%	50.0%	25.0%	37.5%	12.5%	37.5%	0.0%	12.5%	12.5%	12.5%
	30歳代	31人	64.5%	35.5%	19.4%	38.7%	41.9%	22.6%	16.1%	16.1%	19.4%	0.0%
	40歳代	28人	53.6%	28.6%	39.3%	46.4%	35.7%	21.4%	21.4%	10.7%	10.7%	0.0%
	50歳代	18人	55.6%	77.8%	44.4%	44.4%	33.3%	22.2%	0.0%	5.6%	5.6%	0.0%
	60歳代	30人	60.0%	50.0%	63.3%	26.7%	36.7%	20.0%	36.7%	10.0%	6.7%	0.0%
	70歳以上	19人	47.4%	73.7%	47.4%	21.1%	26.3%	31.6%	21.1%	26.3%	10.5%	0.0%
区別	門司区	10人	50.0%	40.0%	20.0%	40.0%	30.0%	30.0%	20.0%	40.0%	10.0%	0.0%
	小倉北区	14人	57.1%	42.9%	42.9%	35.7%	21.4%	21.4%	7.1%	21.4%	21.4%	0.0%
	小倉南区	22人	45.5%	36.4%	27.3%	45.5%	50.0%	31.8%	22.7%	4.5%	9.1%	4.5%
	若松区	18人	44.4%	66.7%	50.0%	22.2%	33.3%	11.1%	5.6%	22.2%	0.0%	0.0%
	八幡東区	17人	64.7%	41.2%	41.2%	47.1%	35.3%	23.5%	23.5%	5.9%	17.6%	0.0%
	八幡西区	46人	60.9%	54.3%	45.7%	32.6%	34.8%	26.1%	21.7%	10.9%	13.0%	0.0%
	戸畑区	7人	85.7%	57.1%	57.1%	28.6%	14.3%	14.3%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%

暴力団排除に向けた施策ニーズは、「国の法整備」が56.7%と前回同様の1位。

次いで「暴力団に加入する者を出さないための青少年育成や犯罪者の更生のための取り組み」が前回24.2%から49.3%に大きく増加して2位となった。

問20 あなたを含めた市民の皆様が、今後、より暴力団排除意識を高揚させるためには、どのようなPR手法が有効とお考えですか？（次の中から1つ選択してください）

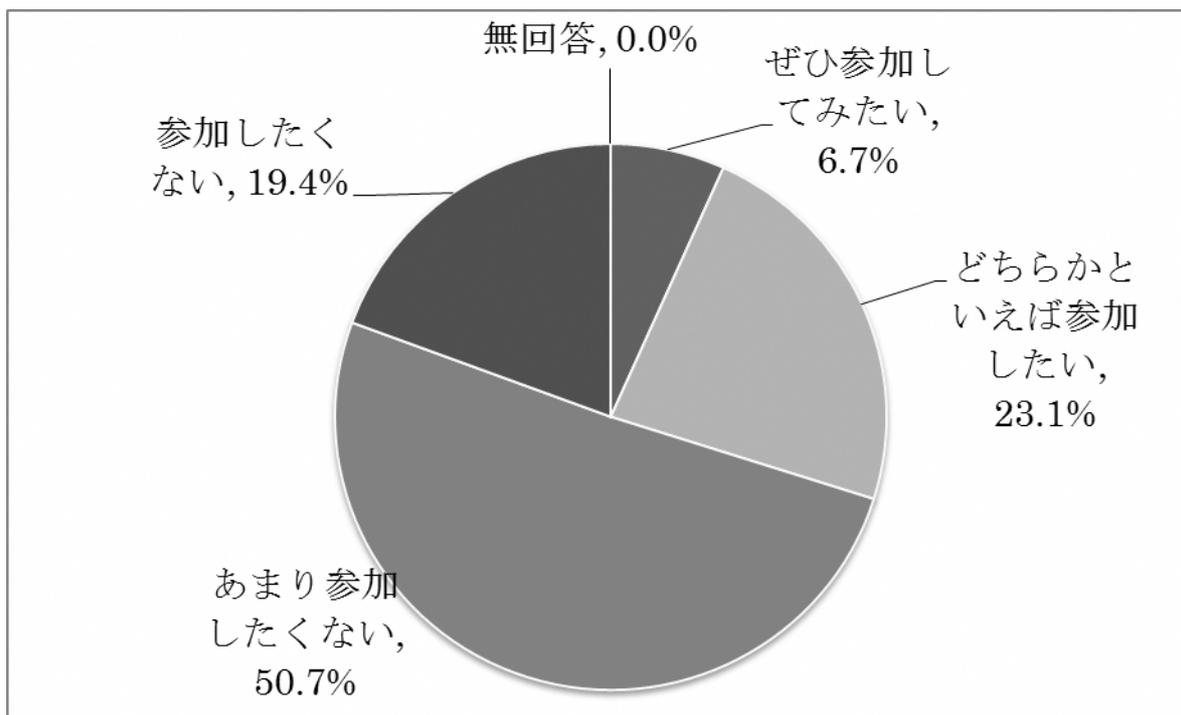


		回答者数	より多くの市民が参加できる暴追大会の開催	住民の目に触れやすい場所へのポスターや懸垂幕などの掲示	暴力追放に向けた、広範囲へのビラやチラシ等の配布	テレビ、ラジオ等マスメディアによる暴力追放を内容とする広報	その他	無回答
全体		134人	12.7%	17.9%	4.5%	56.7%	5.2%	3.0%
性別	男性	44人	9.1%	18.2%	4.5%	56.8%	9.1%	2.3%
	女性	90人	14.4%	17.8%	4.4%	56.7%	3.3%	3.3%
年齢別	20歳代	8人	0.0%	37.5%	0.0%	62.5%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	6.5%	12.9%	6.5%	64.5%	9.7%	0.0%
	40歳代	28人	7.1%	25.0%	0.0%	60.7%	7.1%	0.0%
	50歳代	18人	11.1%	11.1%	5.6%	66.7%	0.0%	5.6%
	60歳代	30人	16.7%	13.3%	6.7%	53.3%	6.7%	3.3%
	70歳以上	19人	31.6%	21.1%	5.3%	31.6%	0.0%	10.5%
区別	門司区	10人	10.0%	20.0%	0.0%	60.0%	10.0%	0.0%
	小倉北区	14人	7.1%	14.3%	7.1%	71.4%	0.0%	0.0%
	小倉南区	22人	13.6%	9.1%	9.1%	54.5%	4.5%	9.1%
	若松区	18人	22.2%	16.7%	5.6%	50.0%	5.6%	0.0%
	八幡東区	17人	0.0%	23.5%	5.9%	70.6%	0.0%	0.0%
	八幡西区	46人	15.2%	21.7%	2.2%	47.8%	8.7%	4.3%
	戸畑区	7人	14.3%	14.3%	0.0%	71.4%	0.0%	0.0%

暴力団排除意識の高揚にあたっての有効なPR手法としては、半数以上の回答者が「マスメディアによる広報」が有効と考えている。

次いで「住民の目に触れやすい場所へのポスターや懸垂幕などの掲示」が17.9%、「より多くの住民が参加できる暴追大会の開催」が12.7%の順に高い結果となった。

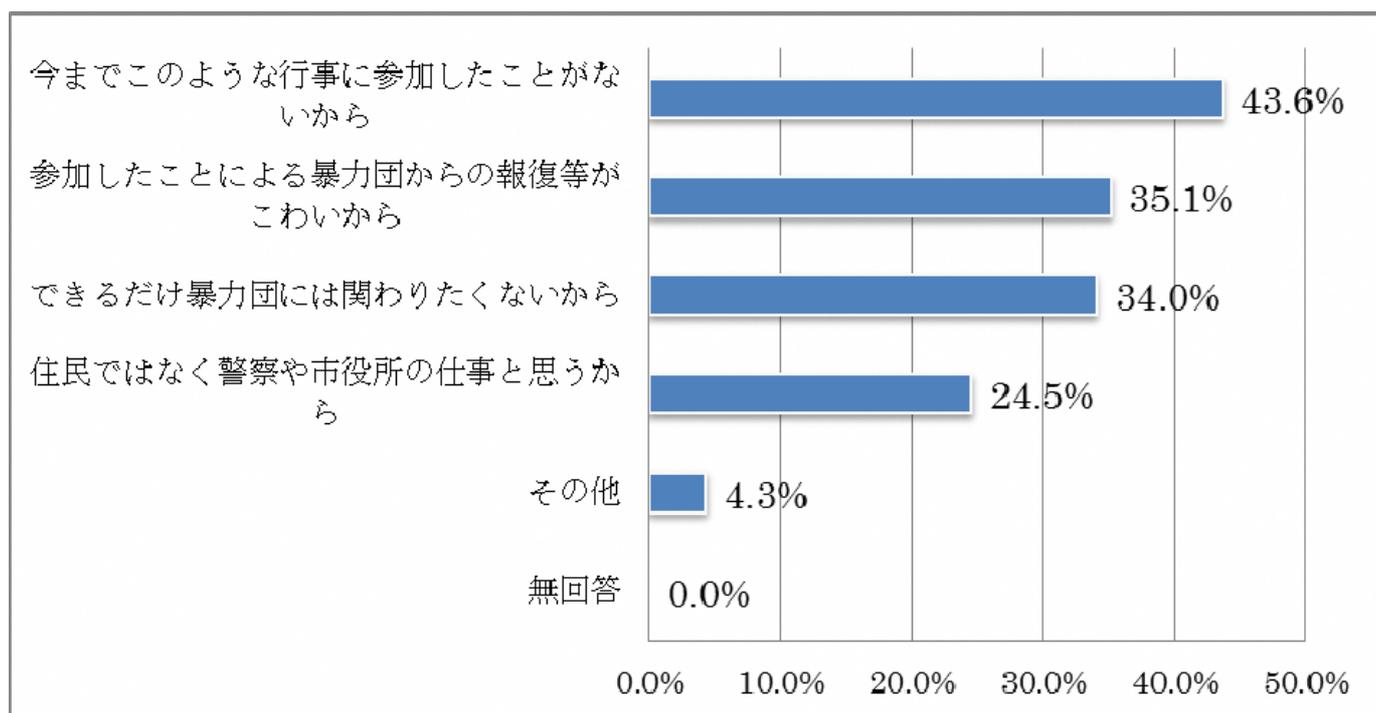
問21 現在、県警察や市などの主催により、市内各地で暴力追放大会や暴追パレードが開催されていますが、あなたは参加する時間があるとした場合に、このような活動に参加することについてどのようにお考えですか？



		回答者数	ぜひ参加してみたい	どちらかといえば参加したい	あまり参加したくない	参加したくない	無回答
全体		134人	6.7%	23.1%	50.7%	19.4%	0.0%
性別	男性	44人	9.1%	25.0%	47.7%	18.2%	0.0%
	女性	90人	5.6%	22.2%	52.2%	20.0%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	12.5%	12.5%	50.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	31人	0.0%	16.1%	58.1%	25.8%	0.0%
	40歳代	28人	3.6%	25.0%	46.4%	25.0%	0.0%
	50歳代	18人	5.6%	16.7%	61.1%	16.7%	0.0%
	60歳代	30人	13.3%	16.7%	50.0%	20.0%	0.0%
	70歳以上	19人	10.5%	52.6%	36.8%	0.0%	0.0%
区別	門司区	10人	0.0%	10.0%	70.0%	20.0%	0.0%
	小倉北区	14人	7.1%	21.4%	50.0%	21.4%	0.0%
	小倉南区	22人	0.0%	13.6%	59.1%	27.3%	0.0%
	若松区	18人	11.1%	33.3%	38.9%	16.7%	0.0%
	八幡東区	17人	5.9%	29.4%	41.2%	23.5%	0.0%
	八幡西区	46人	6.5%	26.1%	50.0%	17.4%	0.0%
	戸畑区	7人	28.6%	14.3%	57.1%	0.0%	0.0%

暴追大会や暴追パレードに対する参加意向としては、  
 ○参加したい層 29.8% であるのに対し、  
 ○参加したくない層 70.1% であった。  
 内訳を見ると、女性や若年層の参加意向が低く、70歳代以上の参加意向が特に高い結果となった。

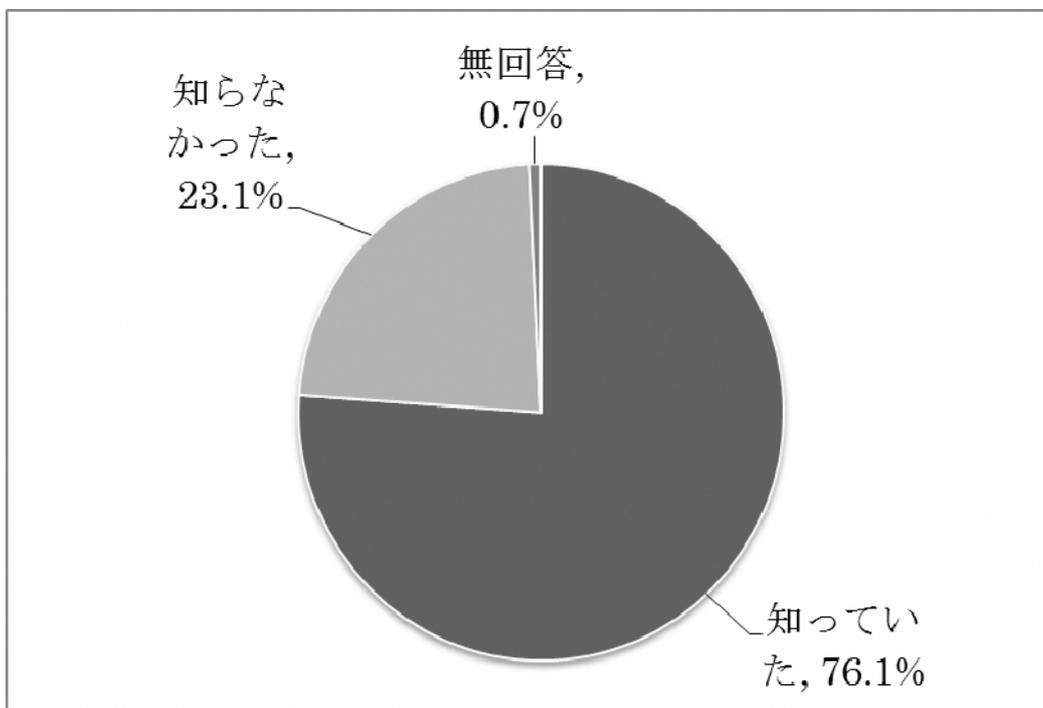
<問21で「3 あまり参加したくない」、「4 参加したくない」と答えた方のみご回答ください。>  
 問22 その理由は何ですか？（複数回答可）



		回答者数	今までこのような行事に参加したことがないから	参加したことによる暴力団からの報復等がこわいから	できるだけ暴力団には関わりたくないから	住民ではなく警察や市役所の仕事と思うから	その他	無回答
全体		94人	43.6%	35.1%	34.0%	24.5%	4.3%	0.0%
性別	男性	29人	37.9%	37.9%	27.6%	31.0%	10.3%	0.0%
	女性	65人	46.2%	33.8%	36.9%	21.5%	1.5%	0.0%
年齢別	20歳代	6人	33.3%	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	30歳代	26人	38.5%	42.3%	53.8%	30.8%	0.0%	0.0%
	40歳代	20人	20.0%	50.0%	15.0%	20.0%	10.0%	0.0%
	50歳代	14人	57.1%	28.6%	28.6%	21.4%	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	57.1%	19.0%	19.0%	28.6%	9.5%	0.0%
	70歳以上	7人	71.4%	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	9人	33.3%	55.6%	55.6%	22.2%	0.0%	0.0%
	小倉北区	10人	40.0%	40.0%	50.0%	20.0%	10.0%	0.0%
	小倉南区	19人	42.1%	31.6%	47.4%	15.8%	10.5%	0.0%
	若松区	10人	60.0%	20.0%	30.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11人	27.3%	54.5%	36.4%	27.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	31人	45.2%	29.0%	16.1%	35.5%	0.0%	0.0%
	戸畑区	4人	75.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%

暴迫大会や暴迫パレードに「参加したくない層」の理由としては、「今までこのような行事に参加したことがないから」が43.6%となっており、次いで「参加したことによる暴力団からの報復等がこわいから」が35.1%、「できるだけ暴力団には関わりたくないから」が34.0%といった回答となった。

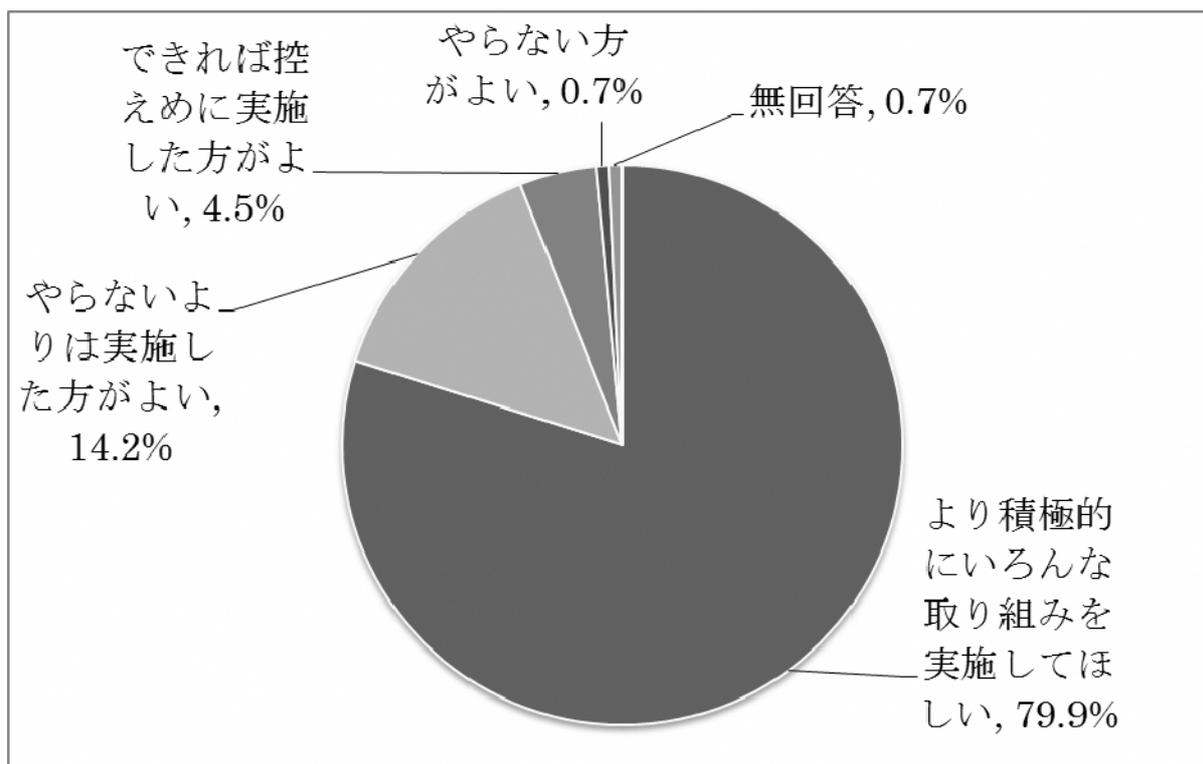
問23 青少年の非行問題として、暴走族への加入、シンナーやドラッグ等薬物乱用、出会い系サイトによる少女売春などが社会問題化していますが、あなたはこれらのいずれも、暴力団加入の予備軍になっていたり、暴力団の資金源となっている実態があることをご存知でしたか？



		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		134人	76.1%	23.1%	0.7%
性別	男性	44人	84.1%	15.9%	0.0%
	女性	90人	72.2%	26.7%	1.1%
年齢別	20歳代	8人	100.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	61.3%	35.5%	3.2%
	40歳代	28人	75.0%	25.0%	0.0%
	50歳代	18人	100.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	30人	76.7%	23.3%	0.0%
	70歳以上	19人	68.4%	31.6%	0.0%
区別	門司区	10人	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	14人	64.3%	35.7%	0.0%
	小倉南区	22人	63.6%	31.8%	4.5%
	若松区	18人	77.8%	22.2%	0.0%
	八幡東区	17人	88.2%	11.8%	0.0%
	八幡西区	46人	71.7%	28.3%	0.0%
	戸畑区	7人	100.0%	0.0%	0.0%

青少年の非行問題が、暴力団への加入に繋がったり、暴力団の資金源となっていることに対する認知度は、76.1%と高かった。

問24 現在、県警察では県内の中学・高校で暴力団排除講演を実施するなどの取り組みを実施しています。あなたはこれらの取り組みについて、どのようにお考えですか？

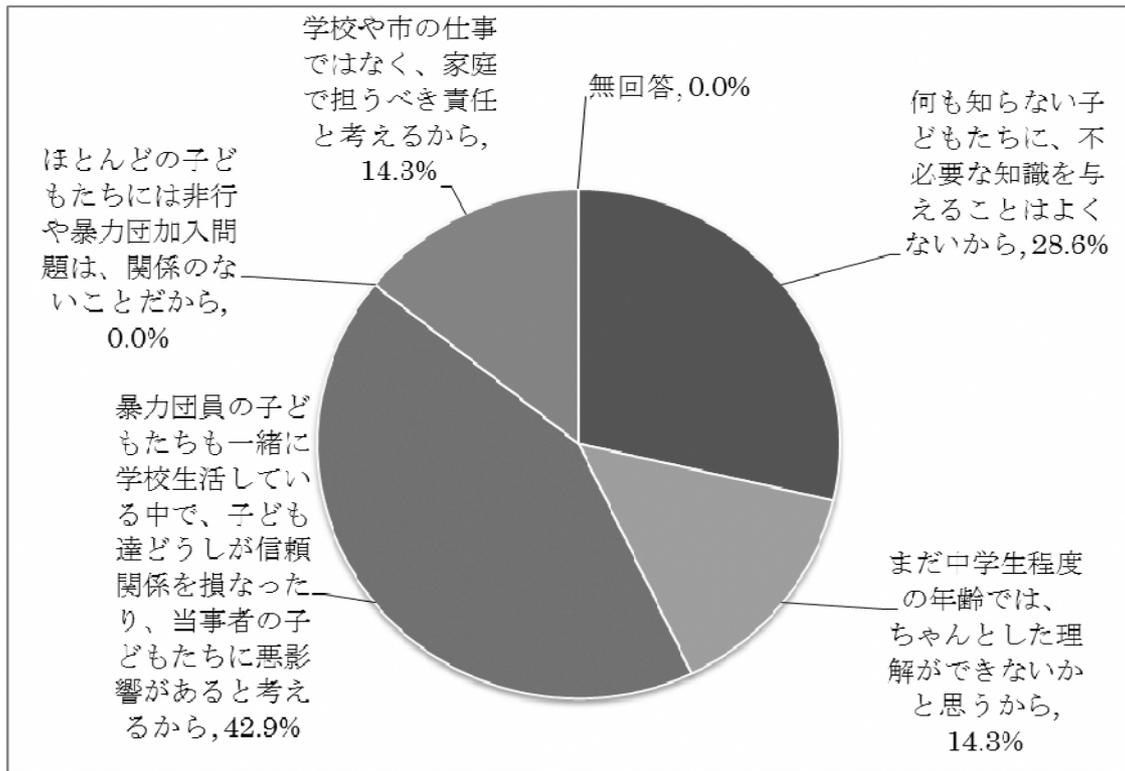


		回答者数	より積極的にいろんな取り組みを実施してほしい	やらないよりは実施した方がよい	できれば控えめに実施した方がよい	やらない方がよい	無回答
全体		134人	79.9%	14.2%	4.5%	0.7%	0.7%
性別	男性	44人	81.8%	15.9%	2.3%	0.0%	0.0%
	女性	90人	78.9%	13.3%	5.6%	1.1%	1.1%
年齢別	20歳代	8人	75.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	30歳代	31人	87.1%	12.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	28人	71.4%	17.9%	7.1%	3.6%	0.0%
	50歳代	18人	83.3%	5.6%	5.6%	0.0%	5.6%
	60歳代	30人	76.7%	20.0%	3.3%	0.0%	0.0%
	70歳以上	19人	84.2%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%
区別	門司区	10人	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	14人	78.6%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	22人	77.3%	9.1%	4.5%	4.5%	4.5%
	若松区	18人	83.3%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%
	八幡東区	17人	76.5%	11.8%	11.8%	0.0%	0.0%
	八幡西区	46人	78.3%	17.4%	4.3%	0.0%	0.0%
	戸畑区	7人	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%

県警察が実施している県内の中学・高校で実施している暴力団排除講演などの取り組みに対する回答者の意向としては、

- 賛成派（より積極的に実施してほしい＋やらないよりは実施した方がよい）が94.1%
- 反対派（できれば控えめに実施した方がよい＋やらない方がよい）が5.2% となった。  
なかでも、「より積極的に実施してほしい」が前回72.7%から79.9%へ増加している。

<問24で「3 できれば控えめに実施した方がよい」、「4 やらない方がよい」と答えた方のみご回答下さい。>  
 問25 その理由は何ですか？（主なものを1つ選択してください）



		回答者数	何も知らない子どもたちに、不必要な知識を与えることはよくないから	まだ中学生程度の年齢では、ちゃんとした理解ができないかと思うから	暴力団員の子どもたちも一緒に学校生活している中で、子ども達どうしが信頼関係を損なったり、当事者の子どもたちに悪影響があるから	ほとんどの子どもたちには非行や暴力団加入問題は、関係のないことだから	学校や市の仕事ではなく、家庭で担うべき責任と考えるから	無回答
全体		7人	28.6%	14.3%	42.9%	0.0%	14.3%	0.0%
性別	男性	1人	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	6人	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%
年齢別	20歳代	1人	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	3人	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	1人	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	1人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
区別	門司区	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	2人	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	2人	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	八幡西区	2人	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

青少年に対する暴排教育や、啓発に対する「反対派」の方達からは、その理由として「暴力団員の子どもたちも一緒に学校生活している中で、子どもたちどうしの関係性や、当事者の子どもたちに悪影響がある」が42.9%と一番高い結果となった。

問26 その他、暴力団対策をはじめとする暴力追放推進施策に関するご意見のある方は、ご自由に記入下さい。

59件のご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

- ・ 追放したくとも、何処かで繋がりあるから、この年月居座り大きくなって行く集団。知人などに、危ない場所、組員がいる場所など聞いて、なるべく近寄らない様生活しています。越してきて、事務所があるところなどきくのも変だし、役所から伝えるのも可笑的いけど、転入してきて、身内知人のいなかった私には必要だったかもなーと思いました。
- ・ 工藤会の総長・会長が捕まったので今後の動きはどうか?今が壊滅のチャンスだと思います。
- ・ 市民生活が何処に住んでも安心できる街づくりに県警・市警はもっともっと手厳しくやっていただきたいと思います。その為には情報の窓口を増やして気軽に連絡出来るようなシステムを作って欲しいです。北九州市の悪いイメージをなくして頂きたいと思います。
- ・ 特に意見はないが「暴力追放推進施策」はどこまでのことが出来るのか私自身知らないが、例えば事務所を撤去できるとか運転免許証を交付しないと、電気・水道・ガスなどを利用できないとか、息の根を止めるような効果策を考えられないのかと思います。
- ・ このところ北九州市民は、工藤会幹部の逮捕が相つぎ市民の関心が高い。アレルギーの強いこの時こそ、この組織を壊滅に追い込んで市民の安全に寄与してほしいと願います。
- ・ 暴力団を追放・撲滅させたいとは思いますが、本当にそれはできることなのか。市民が犠牲になる事件が起きて、たとえ逮捕者が出てトカゲのしっぽ切りで、目標に向けての大きな進展にはならないのではないかと。他県から多くの警察官が応援に来てあまり成果が上がっておらず、日に日に追放は無理なのではないかという諦めの気持ちが強まっている。
- ・ どんな手がかかわってくるのかわからないのと、対策がもっと詳しくわかるよう、広報も力を入れてほしいです。事件が多すぎて、怖いことですが、暴力団員の背景も気になります。若者が引き込まれないか、それが一番気になることです。
- ・ 「車社会」での市民の対応の仕方について、例えば運転免許更新時講習で、最新情報を配布して欲しい。①暴力団と直結しているかは不明ですが、いわゆる「アタリ屋」のパターンや車両No.公開等②暴力団関係の企業や車両No.公開等。
- ・ 組事務所、幹部宅の住所を公表して欲しい。近づきたくないから。
- ・ 需要がある限り、力づくで一方向的に排除しても、又、別の形で発生しそうな気がする。また、映画やVシネマなどで暴力団が格好良く描写されているのは良くない。若者や子供たちが勘違いしてしまう。本当はおそろしい有害な存在であるのにそこは描写されていない。これらの映画は徹底的に排除し、製作者にも罰を警告すべきと思う。普段、暴力団に無関係の一般市民には、観念、道徳のみでなく暴力団がいることで自分達の税金がどれだけ使われているか公表するといいかもしれない。
- ・ まず、私は暴力団を肯定するものではなく、暴力団信仰者でもないことを最初に断言しておき、本題に入ることにします。この数年、暴力団事項における行政施策は異常なものを感じる。
- ・ 暴力団に所属する人も、何らかの理由（貧困や家庭環境等）があつてのことと思います。改

心をして一般社会の中で仕事に就く時に社会の受け入れ、雇用に関しての難点は課題だと思われま

- 暴力団と言う組織を認めてはならないと思います。国が中心となって司法も含めて対応すべきだと思います。
- これから社会に出る子供や孫の為にも暴力団などいない平和で安心して住める社会になって欲しいです。その為には市民も協力していかないといけないと思います。
- 暴力団の温床となっている競艇場などの公営のギャンブル場をなくすことこそが暴力団を根絶する唯一の解決法だと思います。雑草と同じで根こそぎ抜かないと又すぐに伸びてくるように、パレードを何度しても又同じことを繰り返すだけなのではないでしょうか。
- 北九州市は暮らしやすいと自慢に思っているし、満足している。しかし、反面、日本でただ一つの国定暴力団が住む市の現実には重い。市民が解決できる問題ではない。行政に期待しお願いするしかない
- 暴力団員から被害を受けた、または受けそうな者が警察署等へ相談することが必要となる。しかし普通の市民がこうした相談や届け出に不安を感じるのも事実である。何よりも実際の暴力から市民が確実に守られる仕組み作りが必要であろう。これなくしてはどのような対策がとられてもなかなか効果が得にくいと思われる。
- 保護観察になった青少年が無職の状態を毎日過ごしていると誘惑が多く、本人も意識しない間にずるずると暴力団の仲間入りをしていたケースがありました。青少年の支援がとても大切だと痛感しています。健全な子供達を育てることが出来れば暴力団に入る子もいなくなり、暴走運動もすることはなくなります。その為には行政が中心となり、地域、学校等全体で子供を育てる方向に力を注ぐべきだと思います。
- 市民参加の大会に会社から何度か参加したことがあります。活動は大変意義がありよいと思いますが、正直、工藤会館の周りをパレードするときは恐ろしいです。
- 他県にいる親戚、知人から北九州は危ないとこだから行きたくない、と思われているのが残念でなりません。工業都市でありながら今は日本に誇る環境都市であり、食に関しては合馬の筍をはじめ、魚も美味しく、北九州は素晴らしい地なので、暴力団のために良くない場所とのレッテルを早く取り除ける日を願っています。
- 一般市民と共に在ろうとしない存在である暴力団を、法の中で認めているのは、理に適っていない。法の中＝基本的人権を与えている等々市の施策だけでどうこうできることではないと思いますが、暴力団の問題は、市民ではなく国民としての思考、活動が必要かと考えます。暴力団と共に暮らしていることは、おかしいことではありませんか。
- 先日の、工藤会の逮捕は素晴らしかったです。ただ裁判でどの程度の罪に問えるのか今後の経過に注目して行きたいです。友人が「山田緑地に子供を連れて行く時いつも怖い気持ちになる」と言っていました。資金源を断ち、暴力団が暮らしていけなくなる社会を作るために努力して行かなくてはならないと思います。北九州が暴力団の街だという事の驚きと恐怖を改めて感じた今回の逮捕でした。警察頑張ってください！！
- 何処に暴力団関係の事務所や、幹部の住居があるのかを知っておきたいと強く思いました。市民センターを利用した際に生の情報として知らせて頂きたい。危ない場所に近づかないようにしたい。又、我々市民の意識を高めて団結し、反対に暴力団に私達のパワーを示したい。

## IV 全体考察

本市では、市民の皆様が安全に安心して暮らせる社会の確保と、社会経済活動の健全な発展に寄与することを目的として、平成22年7月に「北九州市暴力団排除条例」を施行し、県警察、市、市民や事業者の皆様が一丸となった暴力団排除を推進している。

今回、今後の暴力追放に向けた施策を効果的に推進するため、暴力団排除条例に関する認知度や暴力団排除に向けた市民ニーズの把握に関する設問などを中心に、アンケート調査を実施した。

### 【暴力団排除条例の認知度について】

- 福岡県暴力団排除条例（平成22年4月施行）の認知度が67.9%であるのに対し、北九州市暴力団排除条例（平成22年7月施行）の認知度は64.9%であり、いずれも半数を上回っているが、県の暴排条例の認知度の方が高い結果となった。
- 福岡県暴力団排除条例、北九州市暴力団排除条例とも、40歳代の認知度が最も低い結果となった。
- 福岡県暴力団排除条例では「特定の地域における暴力団の排除」「暴力団員に対する利益供与の禁止」に関する認知度が高く、北九州市暴力団排除条例では、「暴力団員に対する利益供与の禁止」に関する認知度は高い一方、「条例の名前しか知らない」との回答も、県条例で19.8%、市条例で28.7%あり、なかでも30歳代では52.6%と、半数は内容までは認知していない結果となった。

### 【暴力団排除についての関心度と暴排意識】

- 暴力団排除についての日頃の関心度は78.4%、暴力団の存在そのものに対する否定的な見方は95.5%、会社や個人で暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用してもめごとの処理を行うことに対しての否定的な見方が92.5%と、暴排意識が高い結果となった。
- また、実生活の中で暴力団（員）に対する脅威を感じたことがあると回答した方について、その内容（複数回答）を見ると、「自分の生活圏の中で暴力団（員）による事件が発生した」、「市内で発砲事件が発生したから」がいずれも50%以上と高かった。また、「暴力団員風の人相手の交通事故等の処理でトラブルを経験した」と、直接の被害経験も回答されている。

### 【暴力団排除施策に対する認知度】

- 市の安全・安心相談センターや県警察の暴力追放ダイヤルの認知度は前回36.7%から26.9%に減少し、暴力団対策法に基づく「中止命令」制度に対する認知度は41.0%と、全体の暴排意識の高さに比べ、認知度が低い結果となった。

### 【暴力団排除施策に対するニーズ】

- 暴力団員等から不当要求などを受けた場合に、勇気をもって排除できる環境として、今以上に必要なものとしては、「警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援」（直接的な保護対策の支援）が65.7%と突出して高かった。
- 暴力団排除に向けた行政の施策として、今後特に必要と考えるものは、「暴力団を非合法化するための法整備」が前回同様の1位、「暴力団に加入する者を出さないための青少年育成や犯罪者の構成のための取り組み」が前回24.2%から49.3%に大きく増加して2位となった。

- 今後、市民がより暴力団排除意識を高揚させるために必要なPR手法としては、「テレビ・ラジオ等マスメディアによる暴追を内容とする広報」が56.7%と突出して高く、「住民の目に触れやすい場所へのポスター・懸垂幕の掲示」(17.9%)や「より多くの住民が参加できる暴追大会の開催」(12.7%)といったものに対するニーズも一定数あった。
- 県警察や市主催による暴追大会や暴追パレードへの参加意向としては、「参加したくない層」が70.1%と多く、その理由として、「今までこのような行事に参加したことがない」、「参加したことによる暴力団からの報復等がこわい」、「できるだけ暴力団には関わりたいくない」といった、直接的な行事参加に対する住民の不安の念が、保護対策に対するニーズとともに、正直に回答に現れた結果となった。

### 【青少年を暴力団から守るための取り組みについての意識】

- 青少年の非行が暴力団加入の予備軍になっていたり、薬物乱用や出会い系サイトなどが暴力団の資金源になっている実態があることについての認知度は76.1%と高かった。  
また現在、県内の中学・高校で実施中の県警察による生徒への暴排教育については、94.1%の回答者が賛成派である。

### 【まとめ】

- 暴力団排除条例について、県条例、市条例ともに6割以上が認知しているが、40歳代を中心に、認知度が低い傾向にあり、マスメディア等を活用したPRを行うなど、今後とも啓発に努めていく必要がある。
- 回答者全体の暴力団排除意識は非常に高い結果となったが、一方で、安全・安心相談センターや県警察の暴力追放ダイヤル、暴力団対策法の認知度は低く、暴追大会や暴追パレードなどへの直接の参加意向も、参加することに対する不安感などを理由に低い結果となった。  
今後は、暴力追放推進施策のより一層のPRや、市民が安心して暴力団排除活動を行えるような一層の環境づくりが求められる結果となった。
- 暴力団排除施策に関しては、市民が暴力団員等からの不当要求に対して勇気をもって排除するためには「直接的な保護対策の支援」が、行政施策として今後必要なものとしては、「国の法整備」や「暴力団加入阻止のための青少年育成や犯罪者の更生」、「より多くの住民が暴追運動に参加できるための警察と市が連携した安全対策の強化」に対するニーズが高い結果となった。
- 青少年を暴力団から守るための取り組みに関しては、大多数の回答者が、青少年非行と暴力団との繋がり等に関する認知度が高いほか、県内の中学・高校で実施中の暴排教育に対しては賛成意見である。

#### 【市政モニターに関すること】

市民文化スポーツ局市民部広聴課(TEL:582-2527)

#### 【アンケートに関すること】

市民文化スポーツ局安全・安心相談センター(TEL:582-2427)